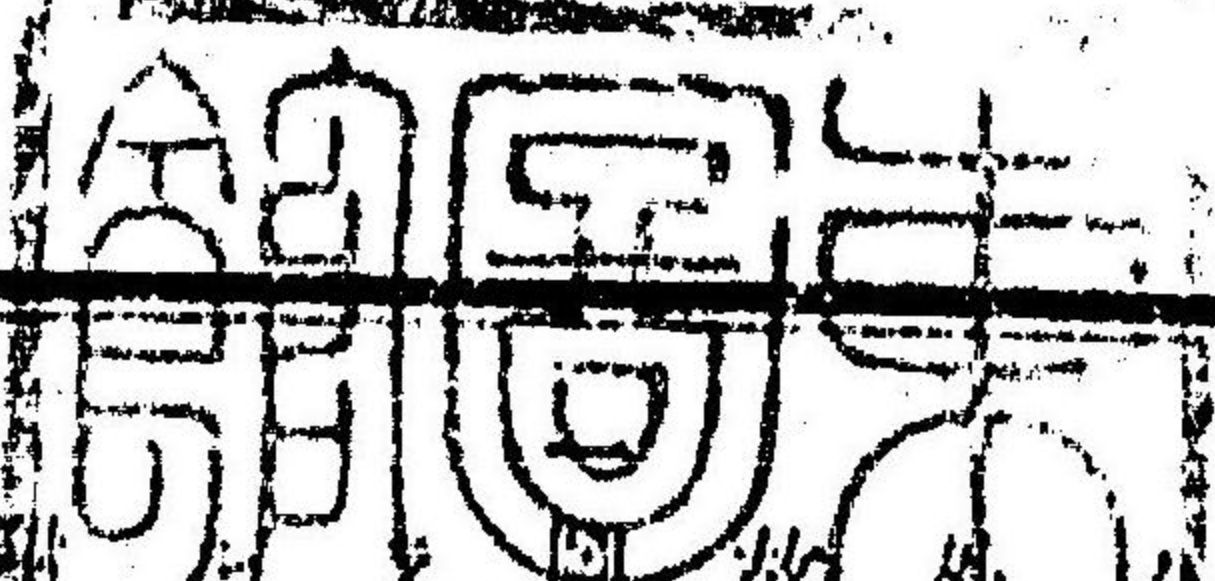


ト2K7

No. 11



月

一書中地勢沿革及ヒ國勢等ハ外國諸書中ヨリ採集シ今回ノ佛突事件
ハ在佛國公使館步兵少佐田島應觀ノ諸報告ヲ主トシ傍ツ内
外新聞紙ニ記載セル者ヲ取捨スル所ナリ但其時々ノ報告ニ係ルカ
故ニ其詳ヲ錯雜ナルハ固ヨリ免レサルナリ

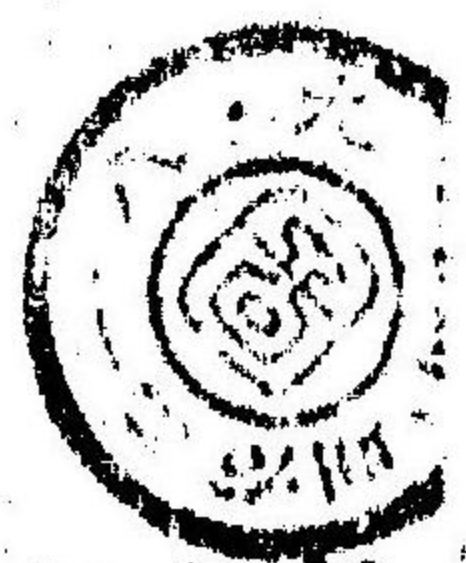
突尼斯戰圖ナレトモ本書ノ爲ニ製シタルモノニハア
リ因テ書中ニ記載スル所ノ地名ヲ缺キ或ハ之ニ符合セリ
者多シ然レモ戰地ノ概況ヲ知ルニ足ルカ故ニ假リニ譯シテ之ヲ
附加ス

一書中單ニ里ト記スル者ハ佛里ニシテ凡ソ我カ九丁十間ナリ其他地
名ニハ右傍ニ雙柱人名ニハ同シク單柱ヲ附シ物名及ヒ原語ニハ一
符ヲ記シテ其別ヲ示ス看者之ヲ願セヨ

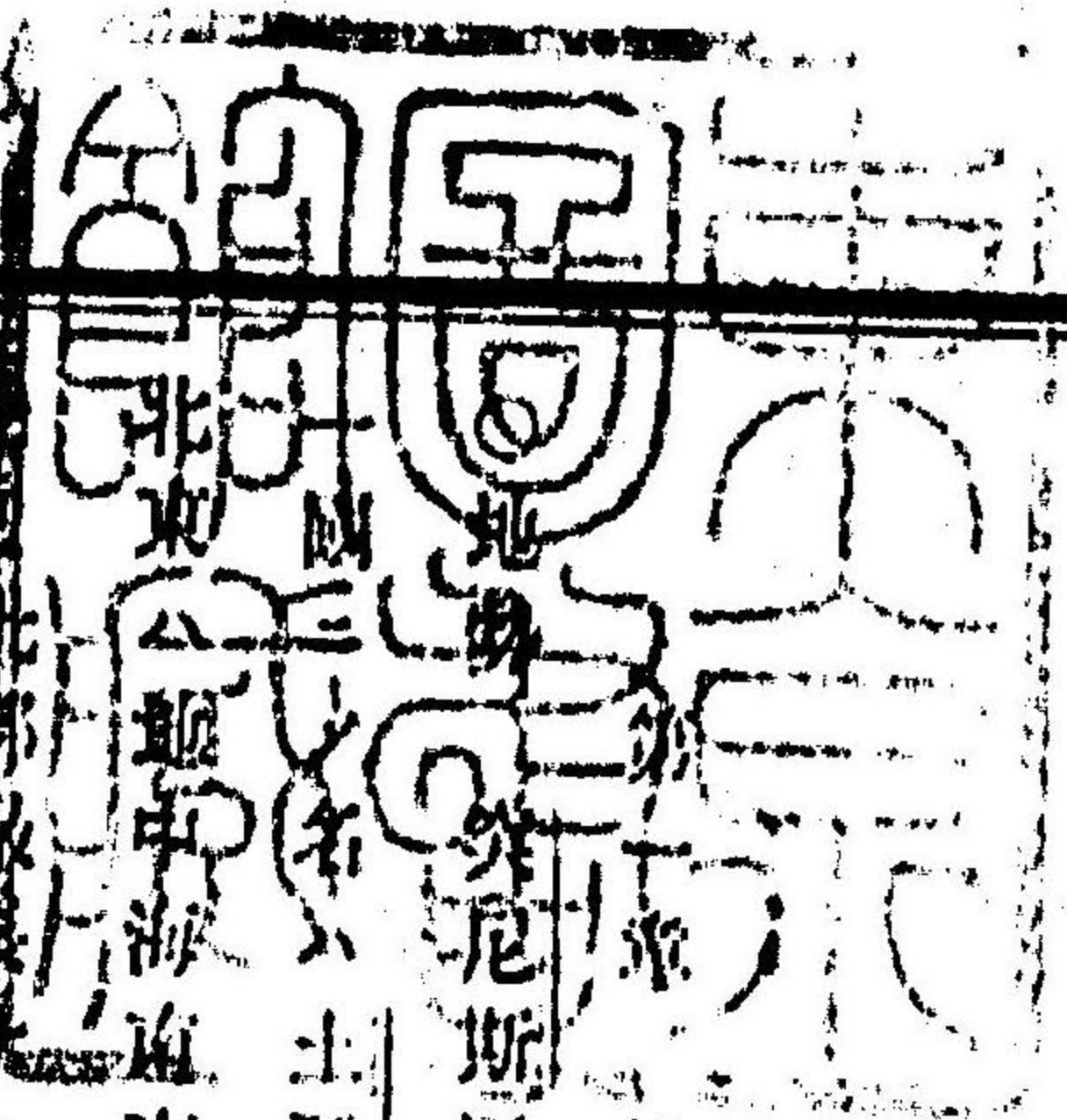
明治十六年四月

目録

- 第一章 地勢及ヒ沿革
- 第二章 王室並ニ國勢一斑
- 第三章 開戦ノ發端
- 第四章 佛軍出征ノ準備
- 第五章 突尼斯ノ兵力並ニ其西北部落ノ兵丁
- 第六章 佛軍ノ進入
- 第七章 佛突兩國和親
- 第八章 突尼斯事件ノ結局
- 附録 歐洲諸國ノ關係



邦本



地勢及ヒ沿革

永田健助 編次

北亞非利加大陸ハ北亞非利加大陸ノ北端ニ在リ其ノ北端ニシテ地中海ノ濱ニ至ル
 地ニテ平均一六〇英里面積ハ七千萬英里ヲ以テ算スヘシ地勢ハ
 一般峻峻ニ屬シ亞太陸ノ山脈亞爾及ヨリ連貫シテ地中海ノ濱ニ至ル
 又西北部ノ海岸ハ峻峻屹立シテ數多ノ彎曲セル處アリ就中其大ナル
 者ヲ突尼斯灣ト名ケ其兩端ノ海角ヲラス、アタール及ビエルハーデムバ
 ルクト稱シ此大洲ノ最北端トス又東部ノ海濱ハ低平ナル沙地ニシテハ

北亞非利加

ムマメット及ビサベスノニ海灣アリ國內一ノ航行スベキ大川ナク唯其流
レノ最モ長キハメヂェルダノ一川アルノミ城京ハ邦内處々ニ湧出セリ
氣候ハ和煦ニシテ肥田沃野最モ多シ故ニ人民怠惰ニシテ耕種ノ術亦
拙劣ナリト雖モ菓蔬百穀ノ收穫夥シク且多ク牛馬駱駝ノ養其ナル者
ヲ産ス其他海鹽硝石鉛水銀蜜蠟珊瑚等ノ産出少カラス其羊毛ノ瓦美
ナルハ世界ニ著名ナリ住民ハムールスアツアストルクスジッス人等
ノ雜種ニシテ中ニ就キ勢力最モ強キ者ハアツアス人種トス國教ハ回
々教ナリ全國ノ人口合セテ幾ト二百五十萬ニシテバルバリー、ステイ
ツ中最モ開化セル民ナレモ之ヲ歐羅巴諸州中ノ最下ナル者ト比スル
モ尙數等下レリト謂フベシ

突尼斯國ノ首府ハ國名ト同稱ニシテ其繁盛ナル亞非利加洲内ニテ第
二等ニ位ヒシ人口十三萬乃至二十萬トス買賣貿易最モ陸盛ヲ極メ毛
布麻布紅帽皮革ノ製造頗ル盛大ナリ府外ニ突尼斯國主ノ宮殿アリ規

許テ隔テ、彼ノ上古ニ著名ナル加爾達領府ノ遺跡アリ昔テ其陸盛ノ
日ニ當テハ人口七十萬ニ過キタリシカ後羅馬ノ將軍シピオノ進攻ニ
會ヒ防戰ニケ年ヲ經テ陷ル耶蘇紀元前一百四十六年然レモ居民死テ決シテ郭内
ニ留リ接戰六日ニ及ヒ街衢ニハ鮮血杵ヲ漂スカ如キニ至リ終ニ羅馬
ノ兵火ヲ放テ全府ヲ燒キシカ十有七日ヲ經テ僅カニ滅セリト云フ此
外邦内カヘスモナスチール及ヒケールソン等ノ都會アリ昔人口一萬
有餘ヨリ乃至五萬ニ至レル繁盛ノ貿易場ナリ現時突國ニ布設セル鐵
道ハ短線三アリ首府ヨリ支別シテコレタト他ノ近傍ニ連貫シ其長サ
總計三十八英里アリ昔一千八百七十八年ニ開創セル者ナリ其他亞爾
及ノ國境ニ達スル八十英里ノ鐵道ハ當時尙築造中ナリ

○沿革 突尼斯國ハ上古ニ陸盛ヲ極メタル加爾達領國ノ遺跡ニシテ
其起源ハフニシヤ國ノ女王其近臣ト俱ニ内亂ヲ避テ此地ニ遷レ來

リ始メテ國ヲ建ツ此事今ヲ距ルコト二千六百餘年前ニ在リ爾後數百年
間ノ事跡沿革ハ甚乎トシテ考證スハキ者ナク降リテ二千二三百年前
ノ頃ニ至リテハ國勢已ニ隆盛ヲ致シ頃ニ隣國ヲ吞併シテ漸ク地中海
ノ諸島西班牙ノ海岸ヲ領シ大ニ希臘及ヒ細々里ト戰ヒ又羅馬ト戰ッ
開キ一百十八年間ニ三回ノ大戰ヲ爲シ遂ニ敗亡セリ之ヲビニツクア
戰ト謂フ此第二役ノ將帥ハニバルノ如キハ古今ノ名將ニシテ其戰
法ハ今尙兵家ノ稱讚シテ止マサル所ナリ此將帥ハ昔テ亞爾伯山ヲ越
エテ羅馬本部ヲ侵シ連戰連勝大ニ伊太利ノ地ヲ攻奪シタリシカレ國
論分レテ軍容彼方意ノ如クナラス此際別ニ羅馬ノ大軍ニ本國ヲ侵サ
レテ大ニ敗レ悉ク屬地及ヒ武器ヲ剝奪セラレテ終ニ和ヲ請スルニ至
レリ第三回ノ戰ニハ國力全ク衰廢シテ遂ニ滅亡ニ歸ス
爾後此地ハ羅馬ノ版圖ニ入り許多ノ興亡變革ヲ經テ紀元一千五百七
十五年ニ至リシナン、バシヤナル者之ヲ征服シテ世々土耳其帝國ニ屬

セシメ世襲ノ副王之ヲ領セシカ内亂屢起テ政權弛シ一千八百年代
ノ頃ニ至リテ終ニ亞爾及ニ從屬セリ然レモ後一千九百年代ノ始メニ
至リハムダ王兵ヲ舉ケ亞爾及ノ羈絆ヲ脱シテ其國ヲ獨立タラシメ土
耳其民兵ヲ征服シ更ニ突尼斯兵ヲ徵シテ陸軍ヲ編制シ大ニ國政ヲ改
革シ世々傳ヘテ今代ニ至ル然レモ歲貢ヲ君士坦丁ノ朝ニ納レ且徵兵
ヲ出スヲ猶他ノ半屬國ト同シ突國ハ固ヨリ回教ナルヲ以テ政令風俗
ニハ善ナクサルモノ多シト雖モ近代ノ國主ニハ世々寛仁大度ノ君出
テ、近年賣奴ヲ禁シ稅款ヲ薄フシ其他百般ノ舊弊ヲ改革シテ人民亦
少シク政事上ノ自由ヲ得ルニ至レリ

第二章 王室并ニ國勢一斑

○王室 今王ノ名ヲシテモハメット、イルサドクトロフ先王シテイ、ア
シンノ嫡子ニシテ一千八百五十九年九月二十三日其昆弟モハメット王
ノ位ヲ嗣ケリ

王統ハ一千六百九十一年以後連續トシテ絶ヘス其祖ベン、アリー、ツ、
 ルキハ、クレト小島ノ出生ナリシカ兵力ヲ以テ此國ヲ奪取シ爾後世々
 土耳其帝ノ藩臣ト稱シ、ベイ、即チ王號ヲ取レリ然ルニ今王ハ一千八百
 七十一年土耳其帝ノ命令ニ由テ其祖先以來定額ノ歳貢ヲ免セラレタ
 レハ名ハ其藩臣ナレバ實ハ獨立國タリ故ニ今日突尼斯國ノ土耳其
 對スル關係ハ唯其正朔ヲ奉スルト有事ノ日ニ臨テ若干ノ兵員ヲ出ス
 ノ義務アルノミ

○政体 元來突尼斯ノ政体ハ純粹ナル君主獨裁ノ制ナリシカ今王位
 ヲ嗣グニ及テ諸般ノ制令ヲ改革シ、サルガニ、グ、ロー、ナル者ヲ布告シテ
 新タニ裁判局ヲ設立シ人權ノ自由ト奉教ノ自由ヲ證認シタリ、サルガ
 ニ、グ、法ノ條款ニ由レハ國王ノ下ニ六員ヲ以テ組織セル内閣ヲ置キ之
 ヲ全國政令ノ出ル所ト爲ス此六員ハ外務、内務、司法、海陸軍務、工務ノ諸
 卿ヲ分任ス此外ニ參事院トモ稱スヘキ者アリ比役員ハ各國ノ領事各

國政府ノ官員及ヒ京城市民ノ代議員ヲ以テ之ニ充ツ

○歳出入 一千八百七十五年六月三十日ヲ以テ終ル會計年度ニ據レ
 ハ突尼斯政府ノ歳入ハ二十七萬三千二百九十二磅ニシテ我一百六十
 三萬九千七百五十二圓但一磅六圓歳出二十五萬一千八百七十四磅我
 一百五十一萬一千二百四十四圓トス是ヨリ先キ突國ハ數年ノ積弊ニ
 由リ外債年々ニ増加シテ如何トモスヘカツサルニ至リ終ニ是カ債主
 タル諸國ヨリ委員ヲ派出シテ其會計上ニ關涉シ近年外債償却法ヲ設
 テ年々若干ノ減少ヲ致スト雖モ現存スル所ノ者尙五百萬磅我三千萬
 圓千八百七十其債主ハ英、佛、伊ノ三國ニシテ其過半ハ佛國ナリ

○陸海軍 突尼斯ノ陸軍分テ二トス一ハ成規兵一八制外兵ナリ甲ハ
 常備兵ニシテ步兵七聯隊此人員三千九百人砲兵四中隊此人員六百人
 騎兵二中隊此人員百人ナリ乙ハ豫備兵ニシテ步兵一萬一千五百人騎
 兵幾ト其四分一二千六百二十五人ニシテ兩兵合シテ凡ソ一萬八千七

百二十五人ナリ海軍ハ僅ニ軍艦一艘載積五百噸砲八門派力百六十馬力ト運輸船一艘載積四百噸砲二門派力百四十馬力トノミ此他現今佛國地中海ノ造船所ニテ製造中ノ小派船二艘アリ兵器ハスナイドル銃多ニ居リ砲ハ伊太利國ノ古砲ヲ用キ皆同國ヨリ輸送セルモノニ係ル

第三章 開戦ヲ發端

突尼斯國ハ佛領亞爾及ト境ヲ接スルヲ以テ此國トノ關係最モ深ク隨テ實際モ亦厚カリシカニ三年來伊國人大ニ權力ヲ突尼斯國ニ布及セント欲シテ百方策ヲ施スヨリ白ラ佛人ト吶嚙ヲ生シ電線ノ架設鐵道ノ敷置等ニ關シ兩國人民ノ間ニ於テ紛議常ニ絶ヘス突尼斯政府モ漸ク佛人ヲ忌嫌スルノ情アルヨリ伊國人ニ對シ懇切ヲ缺キ公平ヲ失フノ處置少カジス是ヲ以テ佛國人民ハ屢突尼斯政府ニ迫リテ其不信ヲ責メ且諸政黨ノ新聞紙ハ其主義ノ如何ヲ問ハス異口同音ニ突尼斯ヲシテ佛國半屬ノ狀ト爲シ其保護ヲ仰カシムヘシトノ說ハ當時一般ノ

輿論ト爲リシ者ノ如シ且言フ是ヨリ先キ一千八百七十八年柏林公會ノ際英國ノ全權大使サリスホリ一侯ト佛國ノ全權大使ワジングトン氏トノ間ニ於テ突尼斯一件ノ密議アリ傳聞スル所ニ據レハ英國ハサイブル島地中海ノ東岸土耳其ヲ占領スルニヨリ之カ報酬トシテ英政府佛國カ突尼斯ヲ吞領スルニ於テ敢テ故障ヲ容レサルヘシトノ密約ヲ結ヘリト

右ノ如ク佛國ハ竊ニ突尼斯ヲ吞併セントノ陰謀ヲ抱クノ際會グルミールナル野蠻ト兵爭ヲ起セリ此蠻民ハ十九部落ノ聯合セル一邦ニシテ佛領亞爾及ト突尼斯トノ國界ヲ占メ陽ニハ突政府ノ管轄ニ屬ストイヘル突政府政令ノ能ク布及スル所ニ非サルナリ其地位ハ亞非利加大洲ノ東北ニ在リテツルルクス岬ヨリメセツク岬突尼斯ノ北ニ至ルノ間四十乃至四十八里間ハ地中海ノ濱ニ沿ヒベシヨリ佛領ノ國境ニ至ルマデノ間ハ西南ニ向テ突尼斯國ト土壤ヲ接ス地勢ハ一般ニ山阜

多ク平野極メテ少ク高山峻嶺亦寡カラス地肥沃ニシテ草木繁茂シ頗ル天險要害ノ地ナレハ守リ易ク攻メ難シ而シテ城內ノ地理ハ未ダ外人ノ詳悉セサル所ニシテ殊ニ山嶺地方ノ狀況ニ至テハ蓋シ土人ノ外絶ヘテ之ヲ知ル者ナシ故ニ今日ニ至ルマテ嘗テ外人ノ使寇ヲ被ラス却テ佛領ニハ蠻民屢闖入シテ到ル所賄物品ヲ劫掠シ或ハ土民ヲ殘害シテ飽クテ知ラサルカ如シ所謂強賊剽盜ヲ事トスル人種ナリ

斯ノ如キ形勢ナルカ故ニ佛國政府ハ常ニ國界ノ不穩ヲ憂ヘ屢突尼斯王ニ巡リテ邊鎮ノ事ヲ督責シタリシカ王肯テ之ヲ意トセス却テ嘿許スル者ノ如シ然レレ佛國政府ハ漫ニ兵力ヲ以テ其罪ヲ問フコト欲セス遷延時日ヲ經タリクルミール都其他ノ蠻族ハ佛政府ノ處置寛裕ナルヲ見テ益々南掠強奪ヲ逞フシ安リニ佛領ニ闖入シ時トシテハ數千頭ノ牛羊ヲ掠メ田圃ヲ抄略シ其最モ甚シキハ亞非利加内地鐵道新築ノ爲メ該地方檢査ノ目的ヲ以テ佛政府ヨリ派遣シタル大佐フツァテル氏

ノ一行ヲ暴殺シ或ハ之ヲ海殺スルカ如キ其殘害至ラサル所ナク且此項ヨリ土蠻ハ各處ニ蜂起シ終ニ一千八百八十一年三月二十九日クルミール土蠻佛領亞爾及ノ一邑ナルエルアイウーノ人民ト紛闘シ爲ニ其邑長ハ微傷ヲ負フニ至ル其翌三十日再ヒ爭闘シ邑民一人ノ力爲ニ死ス時ニクルミール人ハ其屍ヲ奪ヒ去ント欲シ國界ノ一小流ヲ過キ來リ安ニ發砲スルニ因リ該地ノ哨兵第五十九聯隊ノ一中隊ハ之ヲ國境外ニ掃蕩セント欲シ直ニ逃ヘ戦ヒシカ蠻賊ニハ兵勢益々加ハリ兇暴愈甚シク會佛哨兵ハ彈藥將サニ竭ントスルヲ以テ止ムコトヲ得ス退却スルノ際其近隣ノ哨所ヲ守衛セルズワープノ二中隊疾ク驅セ來リテ應援スルニ會フ是ヨリ銃聲愈烈シク日沒ニ及テ始メテ戦ヲ止ムクルミール人ハ突尼斯ノ城內ニ退去シ佛兵ハ此地ニ露次セリ

翌三十一日クルミール人亞爾及國境ノ一地アニケルグールニ出陣シテ佛兵ヲ襲撃シ戰闘十一時間ヲ經テ互ニ退守セリ時ニ來攻ノクルミール

人ハ五百人ニシテ其他ハ概ニ應シテ出戦ノ用意ヲ爲シタルノミ之ト
抗戦シタル佛兵ハ固ヨリ戦フカ爲ニ出タル者ニアラス唯國境ヲ捍衛
セル哨兵ナレハ當時哨所ニ在ル者ハ僅ニ歩兵四中隊ニ過ス故ニ彈藥
等ノ豫備モ充分ナラス且漫ニ國境ヲ輸出スルコトハ國禁ナレハ令交戦
ニ際スルモ恣ニ之ヲ越ヘテ敵兵ヲ進撃スルコト能ハスケルミール人ノ
據レル地方ハ突尼斯ノ國界ナレハ敵兵ハ地ノ利ト戦ノ便トヲ兼テ
リ故ニ佛兵ハ戰國上ノ不利少ナカクサリシカ敵兵ヲシテ深ク國境内
ニ侵入スルコト能ハサシメタルハ故モ天幸ト謂フヘキナリ聞ク此争
闘中佛兵ニハ死者十名傷者二十名士官ニハ死傷者ナク蠻族ノ死傷ハ
一百名ヲ越タリト此戦争ノ際ケルミール兵ノ携帯シタル兵器ハ極メ
テ粗惡ナル火石製ノ銃ナリト云ヒ又一説ニハ現今歐洲ニテ使用セル
新銃ニシテ突尼斯ヨリ輸送セル者ナリト孰レカ其信ナルヲ知ラス
夫レケルミール蠻族ノ斯ク佛領ヲ侵奪セル原因ヲ尋メルニ其實ハ近

隣突尼斯政府ノ煽動ニ出テ、該政府ハ又自ラ伊太利人ニ教唆セシレ
心中私ニ佛國ト齟齬ヲ開クノ日ニハ伊國必ス救援センコト信倚セリ
當時道路ノ人皆説クケルミール不治ノ蠻族ヲシテ斯ク佛兵ニ抗敵セ
シムルニ至リタルハ專ク突國王ノ弟シデアリー公ノ所爲ニ出ツト且
突人及ヒ伊人ノ竊ニ亞爾及地方ニ入り土民ヲ煽動シ反亂ヲ起サシメ
ント謀ルモノ多ク既ニ其數人ヲ捕獲セリ是ヨリ先ニ突國ニ於テハ人
心洵々穩ナラス深ク佛政府ノ處置ヲ怨ミ佛人ノ便益ヲ妨碍センカ爲
メ電信線ヲ切斷セシテ數回ニ及ヘリ又佛國領事ヲ害セントノ告文ヲ
各國領事ニ廻達シテ諸國政府カ突國ノ所爲ヲ是認センコトヲ請ヒ又土
耳其トハ固ヨリ半屬國ノ關係アルヲ以テ事ノ顛末ヲ同國政府ニ報シ
タレハ土廷ヨリ密ニ各國在留ノ使臣ニ告示シタル事アリト云フ
故ニ佛國ノ敵視スル所ハ蓋シケルミール人ニ非スシテ突尼斯政府ニ
在リ夫レ蠻民ノ暴戾ヲ遏フスル此ノ如クナルヨリ佛國政府ハ遂ニ兵

方ヲ以テ之ヲ鎮壓セント欲シ其事由ツ突尼斯國主ニ陳述シタレド國主ハ固ヨリ意アリテ爲ス所ナレハ肯テクルミール人ノ罪ヲ問ハス是ニ於テ佛國政府ハ斷然出兵ノ策ニ決シ諸軍團ニ令シテ最初ハ其人員ヲ二萬五千人ト定メタリシカ後又之ヲ増加シテ五萬有餘ト爲セリ之ヲ亞爾及常備軍ト合スル時ハ幾ト十萬ニ至ラントス

第四章 佛軍出征ノ準備

前ニ述ルカ如ククルミール土蠻カ佛領亞爾及ノ國境ヲ侵シタル後佛國政府カ戰備ノ盛大ナルハ恰モ一大國ト對取セントスルモノ、如シ蓋シクルミール蠻民ヲ征服スルカ如キハ固ヨリ容易ノ事業ナレド此機ニ乘シ亞爾及全地ノアフビア人種ノ反亂蜂起セントシテ慮リ專ラ此ニ備ヘ且ツ突尼斯國人ノクルミール土蠻ニ與ミシテ抗敵セントシテ恐レ敢テ輕々ニ事ヲ舉ケサルナラシ論者曰ク今回川兵ノ順序ニ至テハ佛國ハ八ヶ年来焦心計畫スル所タレハ今之ヲ實踐ニ驗スルノ好機會ヲ得タルモノト云フ可シ然ルニ事未ダ十分施行スルニ至ラズ征討軍ノ編制及ヒ作戰ノ方畧等ニ至テハ稍迂遠ナル所アルカ如ク其出征ノ命ヲ受ケタル軍隊モ準備ノ爲メ空シク日子ヲ費シ迅速其整頓ヲ得サルモノアリ其故ハ軍隊既ニ決スルノ後十有餘日ヲ經ルモ未ダ進發ノ準備全ク成ラサリシハ兵制ニ名ヲ得タル佛國ノ所爲ニハ稍怪ム可キモノ、如シト且巴里府一般ノ評論ハ竊々トシテ征討ノ遲々スルヲ憤リ即チ陸軍卿ニ歸シ排議百出シテ其人トナリ此任ニ堪フル者タラスト爲スニ至ル蓋シ茲ニ至ルモノハ佛人固有性質ノ然ラシムル處ナルヘシト雖モ聊カ其理由ナキニ非サルナリ

夫レ佛國ノ兵制ハ戰時ニ當テハ後備兵ヲ召集シテ各隊ノ兵員ヲ倍從スルノ例ナレド今回ノ出征ニ於テハ別ニ之ヲ募集セズ變則法ヲ用ヅタルニ由リ右ノ如ク豫々ト内外諸新聞等ニテハ陸軍卿ノ措置ノ不當ヲ鳴ラセリ因テ陸軍卿ハ此等ノ駁議誹謗ニ對シ暗ニ左ノ答辯ヲ爲シ

タリ

第一條 今回ノ出兵ハ全ク政治上ノ便宜ニ據リタルヲ以テ戰時ノ後
備兵ヲ募集セサルナリ

第二條 戰時後備兵ヲ増加スルノ規則ハ歐洲ニテ戰争ノ時實施スヘ
キモノナリ然ルニ今回ハ亞非利加鎮定ノ爲メナレハ別ニ多數ノ兵ヲ
要セス是レ後備兵ヲ募集セザル所以ナリ

第三條 急遽開戰ヲ要セザルニヨリ最初出張シタル軍兵ノ敵地ニ入
ラサルノ前豫メ後備兵ヲ整頓スルヲ要セザルナリ

第四條 右陳述ノ理由及ヒ其他種々ノ事情アルヲ以テ今回ノ出兵ハ
全ク異常ノ事件ト爲スナリ故ニ戰時増員ノ規則ヲ舉行セス云々

征討軍團ノ總督ハ中將フサルジモル之ニ任シ中將デルベック、ロジロー
ヴァンサン、ドニリ、デー、ガラン、ゴーム、ブレンムノ六少將各一旅團ヲ指
揮ス其兵員ハ百トシテ第十九軍團中ヨリ之ヲ抜キ亞爾及ノ守衛ニ充

ツヘキ兵ハ馬塞里其他南方ニ駐在セル各軍團中ヨリ簡拔シテ陸續該
地ニ發遣セリ初メ陸軍卿ハ第十九軍團ヲ舉テ征討軍團ニ充テ第十八
軍團ヲシテ代リテ亞爾及ヲ守衛セシメントノ考案ナリシモ其現ニ施
行セル所ヲ見レハ全ク斯ノ如クナラサルモノアリ且此出征ノ軍費ハ
上下兩議院ニ於テ別途支出ノヲニ議決シ現ニ其豫算ヲ四百萬佛ト定
メタリ

茲ニ亞爾及屯在佛軍ノ總員及ヒ第十九軍團并ニ征討軍ノ編制等報告
ノ概要ヲ示スヲ在ノ如シ

第十九軍團ノ編制

軍團司令長官中將ウスモン氏兼亞爾及ノ知事

歩兵

○ズローア歩兵四聯隊(每聯隊四大隊ヲ以テ編制シ各聯隊毎ニ二中
隊ノ「デボー」アリ)

○亞爾及撒兵三聯隊每聯隊四大隊ヲ以テ編制シ各聯隊毎ニ一中隊ノ「デボー」アリ

○「レジョン、エトサンセー」外國一聯隊四大隊ヲ以テ編制シ「デボー」ナシ

○亞非利加輕步兵三大隊

○懲治隊五中隊

○鎮臺步兵六大隊第七第十一第三十四第五十第五十九第一百八十六聯隊ヨリ各一大隊ツ

此總員四十一大隊ニシテ凡ソ二萬九千五百人ナリ

騎兵

○亞非利加獵騎兵四聯隊每聯隊六中隊ヲ以テ編制ス

○「スパイス」騎兵三聯隊編制前ニ同シ

「ユサール」騎兵八中隊「ユサール」第二第四ノ二聯隊ヨリ各四中隊ツ

○調馬局ノ騎兵三中隊

此總員五十中隊ニシテ人員凡ソ一萬人馬匹ハ凡ソ九千頭ナリ

砲兵

○砲兵十二中隊内地各聯隊ヨリ分遣スル所ニシテ山砲兵ト乘車砲

兵ナリ

○橋梁隊一中隊

○砲兵輜重一中隊

此總員凡ソ二千五百人ニシテ馬匹一千四百頭砲七十二門ナリ

工兵

○坑道鋸兵四中隊

内地ヨリ分遣セルモノナリ

○駁水鋸兵一中隊

此總員凡ソ五百人ニシテ馬匹二百頭ナリ

輜重兵

○ 榴重兵十二中隊内地各大隊ヨリ分遣セルモノナリ
此總員凡四千人ニシテ馬匹三千五百頭ナリ

憲兵

○ 憲兵第十九部隊(但四中隊ナリ)

此總員凡九百人ニシテ馬匹七百頭ナリ

會計及庶務ノ部

○ 參謀部及ヒ徵兵部ノ書記第十九ノ一部隊

○ 會計部職工第十九第二十第二十一ノ三部隊

○ 看病卒第十九第二十第二十一ノ三部隊

此總員凡三千五百人ナリ

右諸兵ノ合計ハ即チ左ノ如シ

- 步兵 四十一大隊
- 騎兵 五十中隊

- 砲兵 十二中隊
- 橋梁兵 一中隊
- 砲兵輜重 一中隊
- 坑道鋸兵 四中隊
- 駁卒鋸兵 一小隊
- 輜重兵 十二中隊
- 會計部卒 七小隊
- 憲兵 四中隊

此總員五萬二千五百人ニシテ馬匹一萬六千頭砲七十二門ナリ
第十九軍團ニ屬スル後備軍ノ兵數ハ凡ソ左ノ如シ

- ズワーン步兵 八大隊
- 獵步兵 一大隊
- 亞非利加獵騎兵 四中隊

監林獵騎兵

一中隊

外ニ

海岸砲兵

十三中隊

税關卒

一大隊

陸軍所轄ノ官廨左ノ如シ

軍團本營

一

師團本營

三

分營

十二

砲兵方面

三

工兵方面

三

陸軍病院

四十五

糧食秣食庫

三十二

被服陣營課

十九

亞爾及地方ノ守衛及ヒ征討軍ノ應援等ニ供スル爲ノ己ニ佛國ヨリ發行セル諸兵ノ大數ハ即チ左ノ如シ

歩兵

○鐵道歩兵五大隊第三、第十五、第十七、第八十六、第四百四十五聯隊ヨリ各一大隊ツヽ

○同十八大隊第十八、第二十二、第四十、第五十七、第八十三、第九十六、第一百二十二、第四百一十一、第四百四十二ノ九聯隊ヨリ各二大隊ツヽ

○獵歩兵三大隊第七、第二十七、第二十九ノ大隊
此總員二十六大隊ニシテ人員凡一萬三千人ナリ

騎兵

○獵騎兵六中隊第七第三二聯隊ヨリ各三中隊ツヽ

○ユザール騎兵三中隊第十一聯隊ヨリ出タス

此總員九中隊ニシテ人員凡千三百人馬匹凡一千三百頭ナリ

砲兵

○砲兵六中隊ト一小隊各聯隊ヨリ分遣スル所ナリ
此總員六百人ニシテ馬匹六百頭砲三十八門ナリ

工兵

○工兵三中隊ト一小隊第二聯隊ヨリ分遣ス
○同 一中隊第一聯隊ヨリ分遣ス
此人員凡五百人ナリ

輜重兵

○輜重兵三中隊各隊ヨリ分遣スル所ナリ

會計部卒

○職工及看病卒等ヲ合セテ凡二百人ナリ
右諸兵ノ合計ハ即チ左ノ如シ

歩兵

二十六大隊

騎兵

九中隊

砲兵

六中隊ト一小隊

工兵

四中隊ト一小隊

輜重兵

三中隊

職工及看病卒

十八部隊

此總員二萬人ニシテ馬匹凡三千頭砲三十八門ナリ

征討軍ノ編制ハ未タ詳細ヲ知ル能ハスト雖モ大體左ノ如シ(但前ニ掲示セル諸兵中ヨリ簡拔セルモノナレハ重複セルモノアリ宜シク隊名ニ由リテ分ツヘシ)

征討軍ノ編制

征討軍司令長官中將フルジモル氏

同 參謀長 大佐ホリギツク氏

左翼軍ノ編制(即チ一師團ナリ)

司令長官 中將ダールベック氏

砲兵

○砲兵六中隊ト一小隊各聯隊ヨリ分遣スル所ナリ
此總員六百人ニシテ馬匹六百頭砲三十八門ナリ

工兵

○工兵三中隊ト一小隊第二聯隊ヨリ分遣ス
○同 一中隊第一聯隊ヨリ分遣ス
此人員凡五百人ナリ

輜重兵

○輜重兵三中隊各隊ヨリ分遣スル所ナリ
會計部卒

○職工及看病卒等ヲ合セテ凡二百人ナリ
右諸兵ノ合計ハ即チ左ノ如シ

歩兵

二十六大隊

騎兵

九中隊

砲兵

六中隊ト一小隊

工兵

四中隊ト一小隊

輜重兵

三中隊

職工及看病卒

十八部隊

此總員二萬人ニシテ馬匹凡三千頭砲三十八門ナリ

征討軍ノ編制ハ未ダ詳細ヲ知ル能ハスト雖モ大體左ノ如シ(但前ニ掲示セル諸兵中ヨリ簡拔セルモノナレハ重複セルモノアリ宜シク隊名ニ由リテ分ツヘシ)

征討軍ノ編制

征討軍司令長官中將フルジュモル氏

同 參謀長 大佐ホリギヤツク氏

左翼軍ノ編制(即チ一師團ナリ)

司令長官 中將ダールベック氏

旅團長 少將ヴァンサンドン氏

歩兵六大隊(獵歩兵第七大隊(鐵臺歩兵第四十第九十六第百四十一ノ三聯隊ヨリ各二大隊ツ))

旅團長 少將ガラン氏

歩兵七大隊(獵歩兵第二十九大隊(鐵臺歩兵第十八第二十二第五十七ノ三聯隊ヨリ各二大隊ツ))

旅團長 少將リッター氏

歩兵七大隊(ズワーフ第一聯隊ヨリ一大隊第二聯隊ヨリ二大隊(亞非利加撤兵第一聯隊ヨリ二大隊(同第三聯隊ヨリ一大隊ツ)) 師團附屬隊

「ユサール」騎兵一中隊(第四聯隊ノ分遣)

「スパイス」騎兵一中隊(第三聯隊ノ分遣)

砲兵二中隊(口徑八(珣知米突)ノ山砲)

同 二中隊(四斤山砲)

工兵二中隊

此總員

歩兵 二十大隊

騎兵 二中隊

山砲兵 四中隊

工兵 二中隊

右翼軍ノ編制(即チ一師團ナリ)

司令長官 少將ロシゴロ氏 (一旅團ノ指 揮ヲ兼任ス)

旅團長 少將ロジゴロ氏

歩兵七大隊(ズワーフ第一聯隊ヨリ二大隊(同第四聯隊ヨリ一大隊(亞非利加撤兵第二聯隊ヨリ二大隊(鐵臺歩兵第八十三聯隊ヨリ二大隊ツ))

旅團長 少將アレンム氏

歩兵五大隊 獵歩兵第二十七大隊ト鐵臺歩兵第百二十二及第百四十二ノ二聯隊ヨリ各二大隊ツ

師團附屬隊

獵騎兵三中隊第十三聯隊ノ分遣

砲兵四中隊口徑八瓏知米突ノ山砲

工兵一中隊

此總員

歩兵 十二大隊

騎兵 三中隊

砲兵 四中隊

工兵 一中隊

騎兵旅團長 少將ゴーム氏

騎兵九中隊 獵騎兵第七聯隊ユサール第十一聯隊ヨリ三中隊ツ、亞非利加獵騎兵第三聯隊ヨリ二中隊スバイス第三聯隊ヨリ一中隊

乗車砲兵一中隊口徑八十密理米突ノ野戰砲ナリ

右ノ外要地ニ揚陸スヘキ兵ハ一等甲鐵軍艦シルヴガイヤント號乗組人員五百七十人ニシテ大砲十二門ヲ備ヘ小砲艦リエーヌ及ヒルシヤナルノ二艦各六砲四門ヲ備ヘ後ニハ更ニレナバルノ一艦上陸隊ハ鐵臺歩兵第百四十三聯隊ノ分遣一大隊後ニハ三大隊トアリ孰レカ是ナル送船ヲ屬山砲兵一小隊工兵一小隊ニシテ征討軍司令長官ノ指揮ニ委スルモノニシテ征討軍ノ總員凡ソ左ノ如シ

歩兵 三十三大隊

騎兵 十四中隊

砲兵 九中隊ト一小隊

工兵

三中隊ト一小隊

右ノ外軍需搬運等ニ使役スル人員甚タ多シ此ハ軍隊編制ノ定規外ニ
屬スルモノトス蓋シ該地方ハ道路險隘ニシテ佛國內地ニ用ユルカ如
キノ車輛等ヲ使用スルヲ能ハス多クハ人力又ハ驢馬等ニ由ルカ故ニ
斯ク人夫ヲ要スルナリ亞爾及內地ニ駐屯シテ各地ノ應援ニ供スル所
ノ軍隊左ノ如シ

歩兵

三十四大隊

ニズワープ第一第三ノ二聯隊ヨリ各二大隊ツ、同第二第四ノ
二聯隊ヨリ三大隊ツ、亞爾及撤兵第一及ヒ第二ノ二聯隊ヨ
リ各二大隊ツ、同第三聯隊ヨリ三大隊外國人隊四大隊

亞非利加輕歩兵三大隊

鎮臺歩兵第三第七第十一第十五第十七第三十四第五十第五
十九第八十六第二百二十八ノ十聯隊ヨリ各一大隊ツ、

騎兵

亞非利加獵騎兵第一第二第四ノ三聯隊ヨリ各六中隊ツ、同
第□聯隊ヨリ 第何聯隊ナルヤ 原書之ヲ缺ク 四中隊スパイス第一第二ノ二
聯隊ヨリ各六中隊ツ、同第四聯隊ヨリ四中隊ユサール第二
聯隊ヨリ四中隊同第四聯隊ヨリ三中隊

砲兵

九中隊山野砲ヲ合算ス

工兵

三中隊

右ノ總員ニ因テ開戦前佛領亞爾及地方ニ屯駐セル佛國軍隊ヲ算スレ
ハ即チ左ノ如シ

歩兵

六十七大隊

騎兵

五十九中隊

砲兵

十八中隊ト一小隊

橋梁兵

一中隊

- 砲兵輜重 一中隊
- 坑道鋏兵 七中隊ト一小隊
- 馭卒鋏兵 一小隊
- 輜重兵 十五中隊
- 會計部隊 七小隊
- 憲兵 四中隊

此總人員凡七萬二千五百人

馬匹凡一萬九千頭

砲數凡百十門

右ハ諸報ヲ集録シ其概數ヲ舉ケタルモノナリ

第五章 突尼斯ノ兵力并ニ其西北諸部落ノ兵丁

第二章ニ示ス如ク突國ノ兵ハ陸軍ハ常備預備トモ合シテ僅ニ二萬ニ
 滿タス海軍ハ軍艦一艘運送船一艘ニ過キス此外クルミール其他突尼
 斯ノ西北ニ在テ殆ント獨立シテ佛軍ニ抗セントスルモノハ即チ左ノ
 如シ

クルミール分テ四部トナス

- 其一 スルル 頭領十四名 銃卒三千五百人
- 其二 アトマカ 同 十四名 同 四千人
- 其三 ムセルマ 同 十二名 同 二千四百人
- 其四 シヒマ 同 九名 同 二千五百人

右ノ外テクバ部落アリ此ハ九酋ノ聯合ニシテ其狀況ハ詳知セスト
 雖ル其兵丁ノ數ヲ推測スレハ殆ント一萬ノ銃卒ヲ出スヲ得ヘシ
 是レ突尼斯諸兵ノ概畧ヲ示スニ過キスシテ其詳細ハ固ヨリ推知スル
 不能ハサルナリクルミール人ハ男女ノ別ナク十一二歳以上ニ至ル者
 ハ皆兵ト爲リテ戰地ニ臨ムヲ例トス其將サニ戰ニ出ントスルヤ家ニ
 四五歳以下ノ小兒アレハ悉ク之ヲ絞殺スルヲ定規トス又其携フル所

ノ兵器ハ多クハ英國製ノ大砲小銃ニシテ身體ニハ唯薄キ單衣ヲ履以
上ニ着ルノミ足履ヲ穿タス山地ヲ馳驅スルト極メテ迅速ナリ佛兵ノ
一里ヲ歩スルノ間ニハ二三里ヲ過クヘシ且ツ戰法ハ專ク散兵ヲ用ヒ
進退出沒ノ自在ナル遠ク佛兵ノ及ハサル所ナリ

第六章 佛軍ノ進入

征討軍ハ其準備整頓セルヲ待テ數十艘ノ軍艦運送船ニテ漸次陸兵ヲ
亞爾及ニ送り全員機ント到着ノ後分テ之ヲ四軍ト爲シ三軍ハグルミ
ール國境ノ左右及ヒ中央ヲ衝キ一軍ハ極左ノ方面ナルグルミール兵
駐在セルタルバルカ亞爾及國境ニ近キ海岸ニ接セル一島ヲ占據シテ之ヲ休憩所ト爲シ
機ニ乘シテグルミール本部ニ向ハントス

部署既ニ定マリ全軍四月廿四日ヲ期シテ海陸ヨリ共ニグルミール國
境ヲ越エ進入ス其途中或ハ若干ノ土兵ニ遇アリ或ハ一丸ヲモ發セ
ス無人ノ境ヲ行クカ如キアリ然レモ魅メテ持重ノ策ニ出テ夜間ハ諸
營ヨリ烽火ヲ揚テ互ニ其所在ヲ知ラシメ彼此ノ連絡ヲ通シタリ

一軍ハ廿五日夜ニ乘シテタルカ島ノ堡塞ヲ砲撃ス敵兵皆テ應スル
者無シ乃チ廿六日朝上陸シテ全島ヲ占領セリ

突尼斯王ハ陽ニハ佛軍ノ國境内ニ入ルコトヲ許諾スルノミナラス自ラ
必要ノ兵隊ヲ出シテ鐵道線路等ヲ防守セシメ以テ佛軍ノ利益ヲ圖リ
決シテ佛兵ト戰フノ意ナシト囑言スレモ陰ニ之ヲ忌ミ人民鎮撫ヲ名
トシテ其弟シチアリ公及ヒ陸軍卿ヲシテ常備兵及ヒ臨時募兵ヲ率
テテ首府ヲ發シグルミール地方ニ向ヒ防禦ノ備ヲ爲サシメアリヘ
ト公是レシチアリ公ハ屢グルミールノ陣營ニ出入シ頻リニ之ヲ劫
働シ佛軍ニ抗敵セシメントシ已ニ數日前數隊ノ突兵ヲ引率シ國境ニ
向テ進發シ佛人所有ノ鐵道ニ由ラスシテ故ヲニ別路ニ就ケリ

諸軍進攻ノ景况ハ各方面ノ報告ヲ集輯シタル者ニシテ概略左ノ如
シ然レモグルミール地方タルヤ未タ地圖ノ詳明ナル者ナキニ由リ

明細ニ指示スヲ能ハス特ニ唯其一斑ヲ掲ルノミ

進攻ノ方面ヲ大別シテ四トス其一ハ海路ヨリ敵ノ背後ヲ衝カントス
ルノ策ニシテ地中海ニ臨メル一港ニ上陸スルモノトス該港ノ形状ハ
タバルカト稱スル一小島大陸ト對峙シテ港灣ヲ成シ其島頂ニ一峯アリ
又之ト相對セル大陸ニ一ノ城嶽アリ之ヲホルヂジードト名ツケ共
ニ突兵ノ守ル所ナリ一ハ左翼軍ニシテ最モ海岸ニ近接セルケフウー
ンクアールト稱スル地方ヨリ國境ヲ越ヘテ進入スルモノトス一ハメ
チエルダ河ノ溪谷間ヨリ進攻スル者ニシテ即チ中央軍ノ地位タリ一
ハ右翼軍ニシテケフ府ヲ經テベチヤ府ニ向ヒ進攻スルモノトス今左
ニ此各方面ノ戰況ヲ各別ニ集録シ以テ進攻ノ順次變遷スル概況ヲ記
ス

○タバルカ港ノ方面 前ニ記スルカ如クタバルカノ方面ニ上陸スヘ
キ軍ノ編制ハ歩兵三大隊山砲兵一小隊工兵一小隊ニシテ大佐ゲルベ
ック之ニ將タリ而シテ一等甲鐵艦シルヴイヤント鐵艦長海軍大佐ツロ
ンブ一等砲艦リエーメルシヤカル及レタバル三艦ヲ率テ外ニ運送船ニ
ルレーズ號ヲ附屬セリ此等ノ諸軍ハ疾クタバルカ港ニ侵入シ該島嶼
砦ノ守將タイブミスノルジニ向テ使テ遣シ直ニ該島ヲ致スヘキ旨ヲ
述ヘ且二時間内ニ回答ナキニ於テハ斷然砲撃ニ及ハンコトヲ通知ス然
ルニ彼レ百方官ヲ設ケ上陸ヲ拒絕シ遷延時刻ヲ經過シ期ヲ過タルモ
回答セスコンプ乃チ令ヲ傳ヘ四月廿五日未明迄ニ砲撃ヲ行ヒ夜間
ハ電氣燈ヲ以テ城砦ヲ照シ二十六日拂曉上陸シテ直ニ之ヲ占領シ近
傍諸酋長ノ降ヲ納レウーエドケビールト稱スル河口ニ向テ殆ント十
二英里ヲ進ミシカ其近傍村落ニ散在セルクルミール人等山間ニ出沒
シ烈シク發銃スルヲ以テ佛兵ハ遂ニ三英里ヲ退キ死傷モ亦少カラス
然レ佛將ハ衆ヲ勵シテ尙進撃シ所在人家ニ放火セシカハ鐵兵皆逃
レ走テウーエドケビールノ溪間ニ入ル佛軍ハ遂ニ鐵兵ノ屯集スルヲ

見ルノミ復タ一人ノ抗スル者ナシ是ニ於テ佛將ハ諸處ニ配兵シテ其
 占領セル土地ヲ經營シ又海岸ニ沿フテカール亞爾及ノ一港ニシテカ
 ノ間ニ港ニ至ルノ道路ヲ修築シ以テ交通ノ便ヲ圖レリ
 廿七廿八ノ兩日ハ專ラ陣地ノ守備ニ從事シ西南ニ向テ哨兵線ヲ擴張
 シ糧食彈藥等ノ準備充分整頓スルヲ待ツテ更ニ進攻セントス然レモ
 道路ヲ修築スルハ第一用兵ノ急務ナルヲ以テ尙ホ益其經營ニ從事シ
 遂ニ道路ヲボルデセグロブニ達シテカール港ヨリ起工セル道路修繕
 兵ニ出會セントス廿九日カール及タバルカノ兩港ヨリ着手シタル道
 路ノ修築ハ國境ニ於テ殆ント將サニ連絡セントスルニ至リ該路線ナ
 ル沿海ノ諸酋長ハ皆風ヲ収ミテ迎ヘ降り爾後極メテ靜謐ニ歸ス三十
 日ニ至リ兩港間ノ道路ハ全ク竣工シテ自在ニ交通スルヲ得ヘキ善莫
 ナル一條ノ道路ト爲レリ當日ニ至ルマテ諸隊ハ依然トシテタバルカ
 港ニ在リ

○左軍ノ方面 此方面ニ向ヒシ兵ハ三旅團ニシテ中將デルベック之カ
 司令官タリ而シテ其左翼旅團ハ兵員步兵七大隊山砲兵一中隊工兵一中
 隊ニシテ少將リッデー之ニ將タリ此旅團ハケラウーンテアールニ陣ヲ
 置き其左側海岸ニ沿フテカール港ヨリ國境ニ至ルノ道路ヲ修築セリ
 中央旅團ハ兵員步兵六大隊山砲兵一中隊工兵一中隊ヲ以テ成リ少將
 ヴァンザンドン之ニ將トシテエルアイウーンニ陣ス右翼旅團ハ兵員步
 兵七大隊山砲兵一中隊工兵一中隊ヲ以テ成リ少將ガラン之ニ將トシ
 テアルムエルスークニ陣ス其他騎兵二中隊山砲兵一中隊工兵一中隊
 ハ豫備軍トシテエルアイウーンニ陣セリ

左軍カ斯克部署ヲ整ヘタルハ四月廿三日ニシテ翌廿四日國境ヲ越エ
 テ進發シ沿海諸部落ノ降ヲ納ル廿五日午後中將デルベック諸兵ヲ檢閲
 シ地理ヲ探偵セシメ各自向フヘキ方面ニ從ツテ諸旅團ヲ指定ス會大
 ニ兩フル其歇ムヲ待テ同時ニ諸軍ヲ進メント欲シ暫ク進軍ヲ猶豫

セシカ午後八時ヨリ暴雨益烈シク陣地ノ全面ハ恰モ沼澤ノ如ク泥濘
 殆ンド膝ヲ没シ人馬共ニ行歩ノ困難ヲ極メ夜半ニ至リ雨始テ歇ム師
 團長ノ令ニ因リ廿六日午前二時ヲ以テ發スヘキヲニ決シ直ニ其準備
 ニ着手ス蓋シ師團長ノ方客タバルカ方面ト同時ニ進攻セシムルニ在
 リテ發程ヲ促シタルナリ第二時斥候並ニ前衛ハ枚ヲ啣テ潛ニ發シ第
 三時全軍上途シ中央旅團ハウーエトジナシテ經テケフシツガ及ヒバ
 プークノ二峯ニ向ヒ右翼旅團ハ中央旅團ノ右側ノ稍背後ナルフヂエ
 ルカーツニ向ヒ泥濘ヲ衝テ進攻シ拂曉ニ至リ右翼及ヒ中央ノ二旅團
 ト共ニ前面ノ丘陵^{ケノシツ}ヲ越エテ其背後ニ出ルヲ得タリ其之ヲ越
 ルニ當リテヤ展沼澤茂林等ニ阻セラレ加フルニ雨後泥濘甚シク馬匹
 車輛ヲ除クノ外ハ道ナキ山野ヲ跋涉シタルカ故ニ行歩ノ困難最モ甚
 シク其馬匹ノ如キモ亞爾及產ヲ除クノ外ハ大ニ疲勞セリト云フ
 既ニシテ第七時ニ至リ右翼及ヒ中央二旅團ノ前衛ハ殆ント同時ニ前
 面ノ丘頂^{ハブーク}ナツクニ遠ス此丘陵ハ即チ進攻ノ首點ナレハ中央軍ハ號
 砲ヲ發シ信號ヲ左右兩翼軍并ニタバルカ方面ノ上陸隊ニ通シ直ニ諸
 兵ヲ部署シテウームエルクレイルニ陣ス會敵兵カ中央右翼兩旅團ノ
 間ナル樹林中ニ出沒スルヲ見テ少砲兩兵共ニ發放ヲ始メ激戰數刻ニ
 及ヒ敵兵遂ニ敗走シテ樹林中ニ遁逃セリ此戰ニ佛ノ中央旅團ハ死
 者三名傷者五名ノミ敵ノ死傷ハ幾多ナルヤ未タ詳ニ知ル可ク是ニ
 於テ佛兵ハ陣地周圍ノ障礙物ヲ燒却シ防禦法ヲ整備シ以テ敵ノ夜襲
 ニ備フ左翼旅團亦他ノ旅團ト共ニ進軍シテベルヤデグ及ヒバズスツ
 グノ丘陵ヲ占領シタリ此處ニ到ル迄皆テ敵兵ヲ見ス午後六時三十分
 ノ頃林中敵兵ノ出沒スルアルヲ以テ直ニ砲撃セシカ僅ニ四五發ニシ
 テ敵兵皆逃走シ往ク所ヲ知ラス因テ陣地ヲ占領シ更ニ步兵四大隊ヲ
 進メテ前面ノ一丘陵ヲ占メシム時ニ中央旅團ノ方面ニ方リテ砲聲ヲ
 聞ク此際司令長官中將ブルジセルハ進ンタルウームエルストクニ本營

ヲ置キ且カール港ニ電信線ヲ架設シ左翼前方ニ進ミタルリッケーノ旅團ニ向テハ廿七日ウーミュテアブルヲ經テエルアイウーニ轉シ中央旅團ノ豫備軍トナルヘキノ命ヲ傳フ是ヨリ先キ中央旅團ハウーエドジナノ東方ニテ全ク敵境ニ侵入シ數時ノ小戰ヲ經テ益々進攻セリ然レモ氣候ノ劇變ト地勢ノ險惡トニ因リ諸兵ノ疲勞最モ甚シク進行稍遲緩ナリ又少將ガランノ旅團ハメヂェルダノ溪間ニ向ヒ已ニ國境ニ近接セリ廿八日師團ハ少將ヴァンサンドンノ旅團ヲ先鋒ト爲シ少將ガランノ旅團ヲ第二線トシ少將リッケーノ旅團ヲ豫備トシテ第三線ニ置キエルアイウーニヨリケフシツガニ至ルノ間ニ在リ偶少將リッケーノ旅團ニ發病シ頗ル危篤ナルヲ以テ假リニヂェルデーヲ以テ其旅團ノ指揮ニ任ス廿九日兩旅團ニ因リ庇護セラレタルヴァンサンドン氏ノ旅團ハ十分前哨兵ヲ配置シテ漸次ニ進攻ス三十日全師團ウーエドジナノ地方ヲ平定シ翌二一日ノ濬陣ヲ爲セリ

右ノ如ク師團ハ漸クグルミール地方ノ西南ニ向ヒ少將ヴァンサンドンノ先鋒旅團ハ廣ク前面ヲ探偵シ第二線ナル少將ガランノ旅團ト連絡ス此第二線ノ旅團ト少將リッケーノ豫備旅團トハルームエルスーク、エルアイウーニ及ヒウーミュテアブル等ノ諸陣地トノ間ニ在テ諸方面ノ連絡ヲ全フス然シテ此方面ハ道路稀少加フルニ障礙最モ多ク且露營ノ地ハ皆沼澤ニ等シク降雨ニ會スレハ忽チ汎濫シテ湖水トナルヲ以テ人馬ノ疲勞更ニ甚シク進軍極メテ遲緩ナリ

○メヂェルダノ方面 此方面ハウーグター、スグルミールノト稱スル一部落ニ備フル者ニシテ兵員ハ步兵五大隊山砲兵一小隊工兵一小隊少將ブレンムノ指揮スル所ナリ蓋シ該方面ノ進路ナルウーグター、リースノ部落ハ前ニ記シタル諸方面ノ後方ニ在テ殆ント隊狀ヲ成シ佛領ニ突入セルカ故ニ特ニ之ニ備フルモノナラン其目的ハ他ノ三旅團ニ次テ進ミ突尼斯領ナルガルヂマウ

突尼斯ニ至ル鐵道ノ起ル所ノ汽車驛ヲ占領セ

ントスルニ在リ四月廿三日此旅團ハスークアタリス亞爾及ノ一瀛車ニ在リ東方ヨリメヂェルダノ溪間ヲ經テ國境ニ至ルノ道路修繕ニ着手シ數日間此作業ニ從事ス廿八日進テ國境ニ達シ廿九日スークアタルアラーウ占領シ翌三十日遂ニガルジマウノ停車場ヲ占メ少將ロジローノ旅團ト交通ヲ開キテウークアタリスノ村落ヲ降ス是ニ於テスークアラーヨリガルジマウニ達スル道路及ヒガルジマウヨリスークアタルアルバケフトベヂヤノ中ニ至ルノ道路ハ修繕皆功ヲ竣ヘ一切ノ軍須ヲ運搬スルコトヲ得ルニ至レリ

○ケフ及ヒベヂヤノ方面 此方面ハ少將ロジローノ指揮スル所ニシテ其兵員ハ歩兵七大隊騎兵三中隊山砲兵三中隊工兵一中隊外ニ少將ロームノ指揮ニ係ル騎兵旅團アリ其兵員ハ騎兵九中隊乘車砲兵三中隊ナリ此諸兵ハ四月廿三日シヂャーセフニ陣シ翌廿四日午前同地ヲ發シ土人騎兵ヲ以テ斥候トナシ蕭然進行シ行クノ凡ソ四里ニシテ敵境ノ郊原ニ出ツ是ニ於テ騎兵ハ取調隊次ニ編制シ本軍ニ先タツテ之ヲ掩護シケフ府前ノ平原ヨリ漸ク同府ニ接近ス頃刻ニシテ前衛騎兵ハウーエドメレーグ此川ハ流レテウーエドメヂェルダノ川流ニ達ス其深サ僅ニ一尺餘ニ過キサレハ架橋ヲ要セス諸兵容易ニ徒涉スルヲ得タリ豫定ノ順序ニ從ヒ各隊兩岸ニ沿テ適宜ノ陣地ヲ占領ス即チ前衛兵ハ水ヲ背ニシテ右岸ニ陣シ本軍ハ水ニ臨テ左岸ニ陣ス此地ハ國中稀有ノ郊原ニシテ周邊遙ニ丘陵ノ圍繞セルモノアリケフ府ハ陣地ヲ距ル二十里許土地肥饒ニシテ野草繁茂スト雖モ絶ヘテ耕耘ノ跡ナシ御軍ノ是ニ至ルヤ全ク無人ノ境ヲ行クカ如ク一ノ敵兵ヲ見ス翌廿五日早天全軍徐ニ進行シケフ府ノ西南十里許ニ在ルウーエドメレーグニ達シ茲ニ若干ノ兵員ヲ備ヘ本軍ハ尙ホ進ンテケフ府ニ向ヒ漸ク近ツクニ及テ直ニ攻圍ノ準備ヲ爲シ二十六日午前將サニ砲撃ヲ開カントスルニ際シ府知事ハ市門ヲ閉ヒテ御兵ノ入府ヲ許諾ス是ニ於テ佛

軍ハ銃ニ火セズ及ニ血ヲスシテケフ府ヲ占領シ大佐クローランツ、
 將トシ歩兵一大隊騎兵一中隊乘車砲兵二中隊ヲ府中ニ駐メテ不虞ニ
 備ヘ本軍ハベテ府ヲ進攻ノ首點ト爲シ途ヲメヂルダ溪間ニ取リテ尙
 益ニ進行セリ翌二十七日左翼軍ノ師團ニ屬スル少將リッゾーノ旅團左ハ
 中央及ヒ右翼ノ二旅團ト連絡シテルムエルスークノ東北十五里ノ
 地ニ至リ又ケフ府ヲ發セシ旅團ハ騎兵旅團ト共ニ子ブール（上ケフ府ノ東北ニ
 位ス地方ヲ經過シテケフ府トスーク、エル、アルバノ停車場トノ中央ニ達
 シ廿八日遂ニバイルエルモールニ達シ廿九日スーク、エル、アルバニ達
 ス此地ハガルジマウノ東四十五里突尼斯府ノ西五十五里突尼斯王ノ
 弟アリーベイノ出陣セルベンバシールスーク、エル、アルバノ北ニノ停
 車場ヲ距ルリ僅ニ八里而シテ該旅團ノ發程點シテハセフ距離ルリ百
 二十里許ナリ故ニ一日ノ平均行程ハ二十里トス蓋シ此行軍ノ如ク途
 中ニ諸種ノ障礙物アルノミナラス道路ハ雨後泥濘深ク輜重ノ運輸容
 易ナラス之ニ加フルニ警備ノ爲メ前衛側衛ノ配置ヲ要スル地方ニ在
 テハ極メテ迅速ナリト附フヘシ

却説少將ロジローハアリーベイニ而會シ其麾下ニ在ル制外兵ヲ解散
 シ且其解散兵ハ歸郷ノ途次ベテ府ヲ經過セシメサランツケヘリ而
 シテメヂルダノ方面ナル少將ブレンムノ旅團ハ已ニ進テ其首點ガル
 ジマウニ近接シ又大佐クローランツノ占守スルケフ府ハ極メテ平穩ナ
 リ三十日少將ブレンムノ旅團ハ大佐クローランツトノ連絡ヲ通シ東方
 ベンバシール地方ニ兵ヲ向ケ茲ニ一戰闘ヲ開キタリ然レモ敵兵ハ力
 戰セス周章狼狽シ食獸二千五百頭餘ヲ遺棄シテ遁逃セリ斯ク數多ノ
 糧食ヲ準備セルヲ以テ推スニ此地方ハ果シテ敵兵ノ大ニ集合セシ處
 ナルベシ今ヤ敵兵ハ悉ク散シテベル或ハアブタクローノ山中ニ逃レ
 去レリ

○ピンゼルト港ノ要領 征討軍ハ漸ク進ンテ各處ノ要點ヲ占領スル

ルミールニ與ミシタル諸部落往々降服シ諸部落ノ未タ降ツサルモノハクルミールノ交通ヲ遮斷セテ各孤立ノ勢ヲナスト雖モ其降伏ノ色ナク尙決死助戦ノ狀アリ又突尼斯王ノ兵ハ陽ニ佛兵ニ抗抵セスト雖モ動モスレハ妨害ヲ爲サントスルノ兆アルニ因リ佛軍ハ之ニ備フルカ爲メ更ニ突尼斯國ノ一要害港ビンセルトヲ占領シ一ハ以テ兵威ヲ示シ一ハ以テ突國ノ軍需要求ノ道ヲ斷タント欲シ五月一日遂ニ之ニ據レリ

夫レビンセルト港ハ突尼斯灣ノ西北ニ當リカールトボース港ノ間ニ在テ突國ノ最北タリ佛國ツローン海軍港ト地中海水ヲ隔テ、相對ス蓋シ突國ガ兵器彈藥ヲ購求輸入スルハ皆此港ヨリシ伊太利ノ密賣商モ亦此ニ由テ往來セリ今ヤ此港ハ佛軍ノ占領スル所ト爲リメレハ兵器彈藥要求ノ途頓ニ絶ヘクルミールハ勿論突尼斯王ノ兵ニ在テモ愈々抗敵ノ策盡キタリ間ク該港ハ佛國カサブル及シ屬地ト爲

セシ以來永ク垂涎スル所ニシテ此港ノ近傍ニゲワヘルメラト名タル一大湖アリ此湖恐ラクハビンセルト湖ト稱フナラン此ニ果テ通船セシムル時ハ内地ニ軍艦ヲ向ケルコト得ヘク又三千萬佛郎ノ費シテ港灣ヲ修築セハ世界無二ノ良港トナルベシ此工事ニシテ果シテ成就セハ佛國ハ地中海内亞非利加大陸ニハビンセルト海軍港ヲ有シ歐洲大陸ニハツローン海軍港ヲ有シ因テ以テ蕃族ヲ制服シ雄々歐亞ニ張ルヲ得ヘシト

今ビンセルト港ニ進入シタル佛ノ艦隊ハ海軍少將グロワンノ指揮スル所ニシテ、ワガリソンニエール、ラシルベイヤント、タレイメフグンシ、及ヒ「ラルマ」ノ四軍艦ヲ以テ編制シ之ニ屬スルニ「サルト」及ヒ「ソドリヤード」三運輸船ヲ以テス上陸兵ハ歩兵三大隊山砲兵二中隊工兵一小隊ナリ陸軍少將モーション之ヲ指揮ス此諸兵ハ五月一日該港ニ屯在セル突尼斯戍兵ノ指揮官ニ迫リテ各地ノ要害ヲ要求シ服ハスシテ之ヲ

取リ諸兵ヲ配置シテ嚴ニ之ヲ守備セリ

敵兵ノ景况ハ四月二十六日探偵ノ報ニ據ルニ其部署概テ左ノ如シ
夫レケルヨール鐵兵ノ首トスル所ノ根據ハケフシツガ及ヒデベル
ブダツーニ在リテ遙ニバブールニ連絡シ又突尼斯王ノ弟アリー
公ハ部下ノ兵ヲ率テベンバシルノ停車場ニ陣シ突尼斯國ノ陸軍
卿シセリームハルムエルスーケ及ヒチヘルアブダークノ間ニ陣セ
リ又廿九日ノ探偵ニハアリーベイハベンバシルノ陣ヲ撤シ制外兵
ヲ解散シ唯成規兵ノミヲ引率シテベチ府ノ近傍ニ退ケリト各地探偵
ノ所報ヲ以テ察スルニ敵兵ノ根據ハ全クデベルアブダークノ山中ニ
在テ大ニ該地ニ集合セル景况ナリ

突尼斯國境内ニハ高山峻嶺多クシテ道路便ナクス加フルニ江河ニハ
橋梁ナシ故ニ戰ニ臨メハ佛軍ハ先ツ工兵ヲ派シテ道ヲ開キ橋ヲ架セ
ザル可ラス然ルニ野蠻ノ土人ハ此ニ懸レ彼ニ顧レ西ヲ制スレハ東ニ
起リ勝利ノ決スル所ヲ知ラス敵兵ヲ殲殺シテ其族ヲ殲スニ非サレハ
暇ヲ了ラサルノ風習ナリ今ヤ征討半途ニ至リ佛軍モ騎虎ノ勢ニテ暇
ヲ休止セントスルモ能ハス加之暑威漸ク酷烈ニシテ兵士中病者日ニ
加ハリ頗ル困難ヲ極メタリ地勢ノ險惡蠻民ノ慄慄以テ知ルベシ
佛軍ハ漸ク進攻シテ遂ニ敵境ノ南北兩處ニ於テ各一條ノ交通路ヲ開
設シ軍須ノ運搬モ稍一自由ヲ得ルニ至ル會ニ敵兵根據ヲ轉スルノ報ヲ
得タリ且從前進攻セシ方向ハ愈一進テ地勢愈險惡障固極メテ多ク從
軍益困難ナルニ因リ諸軍茲ニ進攻ノ方向ヲ一變シ改テ諸兵ヲ部署シ
大別シテ二方面トナス其一ハ敵境ノ北方沿海ノ進路ニシテ海陸兩軍
相須ツテ進退シ互ニ應援スルモノトシ又一方ハ敵境ノ南方ニシテ其
鐵道線路ニ沿フテ進攻シ更ニ北方ニ向テ山岳ヲ越テ平原ニ出ントス
ルノ策ナリ然レモ此間ニハデベルアブダークノ山脈アリテ敵兵ノ本
據トスル所ナレハ之ヲ陷ルハ最モ緊要トス此地若シ陷ラハ敵ノ巢

窟ヲ一掃スト附フモ可ナリ因テ全軍ノ部署ヲ定メ中將デルベックノ師團ハルームエルスークニ集合シ少將ブレンムノ旅團ハ少將ロジローノ旅團ニ近接シロジローノ旅團ハ嚴ニヘンバシールニ占守スルモノトス是レ方向變換ノ大勢ニシテ爾後諸軍運動ノ景況ハ大畧左ノ如シ五月二日少將モーションノ部下ハピンセルト港ニ上陸シ海兵ニ代テ各地ノ要害ヲ占守シ中將デルベックノ師團ハルームエルスークニ向テ發行ス其隊次ハリッデーノ旅團ヲ先鋒トシガフンノ旅團ヲ中央第二線トシヴァンサンドンノ旅團ヲ第三線トス少將ブレンムノ旅團ハ中將デルベックノ師團及ヒ少將ロジローノ旅團ノ間ニ在テ彼此ノ連絡ヲ通ス同三日中將デルベックノ師團ハ征討軍ノ總督中將ブルジモルノ營ヲ置ケルルームエルスークヨリ其東北五里ニ在ルチバブラノ間ニ集合シ少將ブレンムノ旅團ハ右ノ師團及ヒ少將ロジローノ旅團ト同一ノ取線上ニ進ミ國境ヨリガルヂマウノ間ヲ占メ少將ロジローノ旅團ハスークエルアルバトベンバシールノ地方ヲ占領シ少將ゴームノ騎兵旅團ヲシテ前面フルナ、ニ向テ探偵兵ヲ出サシム大佐アルベークノ隊ハ常時タバルカニ少將モーションノ隊モ亦ピンセルト港ニ駐屯シ大佐クローランジノ隊ハケフ府ヲ占守セリ此時突王ノ弟アリー、ベイハ己ニ佛軍進攻ノ線界ヲ出タルニヨリ更ニ進路ノ妨碍ナシ而シテ突國ノ陸軍卿シセリームノ引率スル兵ハ其舉動詳カナラス

クルミール嶺兵ハ常ニチメルアブダウニ據レルモノ、如シ該山ノ地位ハエルアイウーノ東南二十里ニ在リテ其途上フルヂカーラ、ズーピヤ、ヂメルアインエルドクハム等ノ地アリ又タバルカノ南方三十里ニシテ途上ハフレットツブダ、シヂカリフー、カンケートハルーフ等ノ地アリ又ベチ府ノ西方七十九里ニシテ途上アルマナニ屯在ス

突尼斯兵常シ、ンナッタフェルナ、ドウイミス、ルピアー等ノ地アリ而ニスークエルアルバノ西方北三十里ニシテ途上メヂルダノ溪間ヲ經テウーエドブーエ

ルトマノチルダ川ノ支流ヘンバシールニ近キ處ニテ本ノ河流ニ違シ
 コレニ沿フテ上レハ河名變シテウーエドグレブツト云フ
 ルアブダツト山中ニ發シ水源クウーエドチースト曰フ又佛軍ノ本營
 ナルルームエルスーグヨリ東方二十一里ニシテ途上ハンマンムダウ
 ーエドムセレームウーエドセーラ等ノ地アリ

第七章 佛突兩國和親

前ニ述ルカ如ク佛軍ハ大舉シテ海陸ヨリ突尼斯國ヲ侵撃シケレハ土
 蠻ハ皆其威風ニ辟易シ敢テ抗拒スル者ナク或ハ戈ヲ倒ニシテ佛軍ノ
 旗下ニ投シ又遠ク遁レテ山谷ノ間ニ潛匿シ佛軍ハ宛モ無人ノ境ニ入
 ルカ如ク僅ニ數日ニシテ殆ト全國ヲ征服ス是ヨリ先キ四月廿七日頃突國政
 府ハ佛軍ノ侵入ヲ聞キ書ヲ突國駐在ノ佛國事務官ニ與ヘテ曰ク我が
 レジアノ大守余輩ニ報ス佛國ノ一軍別ニシアーレンニ居ル突尼斯種族
 ノ領地ニ侵入シケン城ヲ脅迫シ又クルミール族ノ領地ニ入ルト公報
 前日親ヲ佛國ト突尼斯ノ和親破レズト言ヒ其言猶ホ耳ニ在リ然ルニ
 佛軍ノ猖狂既ニ斯ノ如シ且佛軍ノ來寇スルヤ更ニ其事山ヲ我ニ通報
 セス是ヲ以テ余輩ハ佛軍ノ侵入ヲ以テ萬國公法ヲ犯ス者ト公言シ之
 ヲ各國ノ公判ニ付セサルヲ得ス又余輩ハ此舉ヨリ發スル事件ノ責ハ
 獨リ佛國ニ在リト公言スルナリト因テ突尼斯政府ハ電報ヲ以テ書ヲ
 各大國ニ移セリ就中四月廿七日付ヲ以テ英國外務卿ロルド、グランビ
 ールニ送呈セル書ニ曰ク突尼斯王ロルド、グランビール君閣下ニ懇請
 ス願クハ閣下此書ヲ以テ英國女皇陛下ニ上ラント夫レ佛國政府ノ
 憤怒ヲ懷ケルハ獨リクルミール族ニ在リ而シテ我政府之カ爲メニ辯
 解スルコト既ニ數回ニ及ヒ我力能ククルミール諸族ノ暴動ヲ鎮壓ス可
 キヲ保證スト雖モ佛國政府ハ曾テ之ヲ聽カス未ダ嘗テ我ニ投スルニ
 取書ヲ以テセス儼リニ兵ヲ發シテ我國ヲ侵シ宵ニクルミール部ニ入
 ルノミナシス余ク之ニ關係セサル我領地ヲ占有ス是レ皆今世萬國公

法ノ條規ニ背ク者ナリ從來我國ハ佛國ト結フ所ノ條約ヲ確守シ一意
 ニ佛國ノ利益ノレセシ一部 亞爾及的波里及ヒ突 尼斯三國ヲ總稱ス
 フノミ然ルニ今彼ノ我ヲ遇スル途ニ斯ノ如シ余輩ハ其何ノ理由ナル
 ヲ知ツサルナリ加之ナク佛國使臣ノ我政府ニ對シ兩國ノ交際ハ依
 然トシテ舊ノ如ク若シ佛兵ヲ我海岸ニ上陸セシムルコトアラハ必ス我
 許可ヲ經テ而シテ後行フヘシト保證セシハ僅ニ二日前ノ事ナリ是レ
 余輩カ大ニ今ノ舉動ヲ異トスル所以ナリ是ヲ以テ余ハ惟之ヲ我同盟
 國大英女皇陛下ヲ首トシ各大國ニ哀訴シ以テ各大國カ余ノ訴フル所
 ヲ審議シ間ニ居テ裁決センコトヲ希フ余願フニ各大國モ亦我先人及ヒ
 余ト締結セシ條約ヲ考察シ余カ我國ニ居留スル歐洲人ノ權利ヲ保護
 スルニ汲々タリシヲ認了セシナラン故ニ余ハ此艱難ノ時ニ方リ敢テ
 各大國ニ向テ哀ヲ請フナリ余ハ固ヨリ直我ニ在ルヲ知ルト雖モ今日
 ノ事情及ヒ我利害ヲ舉テ各大國ノ明斷ニ付ス云々(四月廿七日モハメッ
 トイルサドク)

右ノ如ク突尼斯政府ハ佛國ノ爲ス所ク曲トシ英國ヲ始メ各國政府ニ
 向テ哀訴シ又竊ニ伊國ノ應援ヲ恃ミシカ其後曾テ符報ヲ得ス佛軍ハ
 益々京城ニ迫リケレハ滿朝殆ト狼狽周章シテ其爲ス所ク知ラサルニ至
 ル

突尼斯政府ノ應事ハ王宮ヲ距ルコト二百碼許ノ地ニ在ルバルド一院ナ
 リシカ五月八日宰相及ヒ百官皆突尼斯國主ノ冬宮ナル「カサルエサイド」
 ニ出務シ大ニ事ヲ商議スルノ際突尼斯ノ外務卿兼將軍ハ「コーチ手」ニ
 一封ノ書翰ヲ振リ送シテ來リテ宮殿ノ廣室ニ突入セリ此書翰ハ益々
 傾クルカ如キ前夜ノ大雨ヲ冒シ五十英里外ノマツール州 ビンセルト
 ノ湖 湖ノ南ニ水 處ニアリヨリ騎馬ニテ來レル使者ノ携ヘタル所ニシテマツール州副
 總督ノ急報ナリ其書ニ曰ク即今佛軍ノ使者本地ニ來リ告ケテ云フマ
 ツールノ人民ハ佛軍ノ本地ニ入ルヲ拒絶セス之ヲ待ツコト朋友ノ如ク

ナルヤ否ヲ今ヨリ十六時間内ニ書面ヲ以テ回答スヘシト請求セリ至
 急指揮ヲ仰クト是ニ於テカサルエサイド宮ニ於テハ大ニ會議ヲ開キ
 マツール副總督ヘノ回答并ニ佛軍ノ使者ニ向ヒテ答辯如何ヲ評議シ
 事未ダ決定セザル際偶大宰相モスタハベンイスメル亦馳セ來リ急
 ニ聲ヲ放ツテ謂テ曰ク初メセントヒレール氏佛人否同ノ出征ハ唯ク
 ルミール人ノ罪ヲ問ハント欲スルニ過キスト明言セシカドモ今マツ
 ールク畧領センコトヲ要求スルヲ以テ之ヲ考フレハ特リクルミール人
 ヲ罰スルノ意ニ非サルコト推シテ知ルヘシト同氏ハ尊テ座ヲ占メ尙ホ
 辯論シテ曰ク夫レマツール州ハクルミール人ト何等ノ關係ヲ有スル
 カ佛人ハ巧ニ其官辭ヲ飾ルト雖モ其實ハ事ニ託シテ我ト爭論ヲ釀シ
 呑嚙ヲ擅ニセント欲スルニ在ルヤ明ナリ夫レ該州ハ我國ニ於テ地最
 モ肥饒人民最モ勇悍ナリ此地決シテ失フ可クスト語未ダ畢クサルニ
 門衛大聲ニ報シテ曰ク佛國總領事ルスタン氏ノ馬車既ニ宮門ニ入り
 タリト大宰相起ツテ傍人ニ問テ曰ク我運命ヲ知ルノ時期至レリト因
 テ直ニ國主ノ便殿ニ入ル總領事モ亦次テ此ニ登リテ國主ニ謁見ス此
 時ヤ參座セル者ハ唯大宰相及ヒルスタンスマリバコンチ(譯官)ノ四
 人ノミ傍室ニ於テハ衆官皆息ヲ吞ミテ談判ノ結果ヲ待テ四機寂然タ
 リ暫クアリテ總領事ハ而談十八分時ニシテ便殿ヲ退キ顔中笑ヲ含ミ
 批讀シテ突尼斯百官駢列ノ間ヲ過キ歸館セリ時ニ殿中ノ人皆ナ歡喜
 ノ聲ヲ發ス既ニシテ大宰相出テ來リ復テ衆官ニ語テ曰クルスタン氏
 ノ來レルハ公事談判ノ爲メニ非ス國主ノ身上ト突尼斯國トヲ愛スル
 ノ誠意ヲ表センカ爲メ故サソニ來レルナリルスタン氏國主ヲ諭シテ
 佛國ハ眞ニ突尼斯ノ同盟ニシテ決シテ爭論ヲ好ム者ニ非ス公ニ於テ
 モ輕躁事ヲ誤ル勿レト謂ヘリト當時心有ルノ徒皆官ヲ大宰相ハ斯ク
 輕々ニ之ヲ看過スレハ大ニ否ヲサルモノアリ今回ノ佛國使臣ハ本國
 ヲリ何等ノ委任ヲ受ケテ來リシヤ其實知ル可クスト

翌九日佛兵ビセルダ
 斯國主ハ愛國ニ地ヘス市中ノ人心モ亦恟々タリ佛將アレアー
 射軍總督中將フジモルニ代リテ事ノ處分ヲ委任セツレシ人ナルヘシ
 ハ前夜一軍ヲ率テピセルダヲ發シ古ノウチカ府近傍ヲ過ルメカダ
 ニ到リテ布營セリメカダハ突尼斯府ボロハリノ、マツール及ヒセイ
 ダノ四處ニ達スル道路ノ分岐セル所ナリメカダト突尼斯府トノ間ニ
 營ヲケレジン、バシヤ、（案）作テ士耳其ノ直轄タリシ頃ノ副王ニノ第宅タ
 ル衙殿アリサバタ下云フ午後三時佛將アレアーノ兵此第宅ノ近傍バ
 ルド一院ヲ距ルコ九英里ノ地ニ來レリ會飛報ノ至ルコ前後三回ニ及
 ブ日ク此夜中ニ佛軍王宮ヲ圍ミ終ニ佛人ト城下ノ盟ヲ爲スニ至ラン
 ト群臣驚愕相議シテ曰ク國主ハ二百年前ノ舊例ニ倣ヒ須ク突尼斯國
 内地ノ神聖ナル舊府カイワンニ退去スヘ可シト或ハ曰クバルド一院
 ヲ出テ、ゲレルベールノ第宅ニ退去ス可シト議未ダ決セザリシガ國主

ハ固ク之ヲ拒ンテ曰ク爾策孰レニ決スルモ國家ノ騷亂ハ既ニ免レザ
 ル所ナリ朕ハ此汚辱ヲ取ランヨリ寧ロ坐シテ死ヲ待ンノミト因テ國
 主及ヒ大臣等萬一佛人ノ捕虜スル所ト爲ルモ必ス宮殿ニ留ル可キコ
 ニ決定セリ

十二日朝總領事ルスタン氏ヨリ譯官ヲ遣シ國主ニ一書ヲ呈セリ其畧
 ニ曰ク今般佛國政府ハ將軍アレアーニ命シテ突尼斯政府ト條約ヲ結
 ハシメントス然レモ其旨趣ハ敢テ突尼斯國ノ地ヲ割キ若クハ國主ヲ
 廢スル等ノ事ニ非ズト是ニ於テ國主ハ宰相ニ命メ答書ヲ作ラシム其
 大意ニ曰ク將軍アレアー氏ニ會見スルコトハ之ヲ諾ス然レモ佛軍ノ突
 尼斯府ニ入ルハ國民ノ安寧ヲ妨害シ且佛國ノ宣言書ニ背馳スル所ア
 ルヲ以テ之ヲ固辭スト書未タ成ラサルニ佛軍ノ前哨兵ハ漸ク進テ王
 宮ヲ距ルコ僅ニ二英里ナルマノーバ村ニ達ス既ニシテ本軍内砲兵一
 大隊アリ總計四千人亦進ンテ突尼斯騎兵ノ陣營及ヒケレジンバシヤ

ノ圍面近傍ニ來リカサルエサイド營ヲ圍ム突尼斯府知事之ヲ聞キ大ニ驚キ自ラ市中ノ各營所ニ至リ至急人員ヲ増加シテ警察ヲ嚴ニセシメ且市街ニ令シ盡ク店舖ヲ鎖サシムルスタン氏復タ譯官ヲ遣シ告テ曰ク國主トブレアー氏トノ商議ハ本日正午ヲ期シテ之ヲ開クベシト然ルニ前日土耳其政府ヨリハ上帝ノ然諾ヲ經スシテ佛國ト條約ヲ締結ス可クストノ嚴命等モアリタル際ナレハ突尼斯國主ハ進退維レ谷マルノ地ニ立テリ然レモ國主ハ毅然トシテ動カス宰相ト俱ニ宮殿ノ窓ヨリ佛兵ノ進入スルヲ望見セリト云フ

佛軍ハクルミールノ鐵民ヲ擊退シ勢ニ乘シ漸ク進テ突尼斯府ニ近接シ五月十三日一軍セゾイダヲ發シテマノールバルドールニ來着セリ此時國主ハ佛將軍ニ向ヒ軍兵ヲ府内ニ入レサランコトヲ請願セシカ

佛政府ノ意ハ妄リニ人心ヲ騷擾スルヲ好マサルカ故ニ直ニ之ヲ許諾シ同日午後四時佛將ブレアー氏ハ國主ニ謁見シテ佛貸六千萬フラン

ノ償金ヲ出スカ否ヲサレハ此條約書ニ調印センコトヲ陳述セリ然レモ小國素ヨリ斯ル巨額ノ償金ヲ支出スルノカナキテ以テ固答ノ期ヲ請テ午後九時ト爲シ八時ニ至リテ遂ニ之ニ調印セリ之ヲカサルエサイドノ條約ト謂フ此條約ノ个條ハ即チ左ノ如シ

現行ノ通商條約ヲ確定スヘシ

佛國ヨリ常ニ突尼斯國ノ境界及ヒ海岸ニ兵ヲ駐屯シテ之ヲ保護シ

且之ヲ看守スヘシ

公債ノ償却ハ兩國政府ニテ之ヲ處分スヘシ

突尼斯國主ハ佛國ノ允准ヲ受ケスシテ外國トノ條約ニ調印ス可ク

突尼斯國主ハ武器及ヒ彈藥ノ輸入ヲ嚴禁スヘシ

突尼斯ノ外國防禦ハ佛蘭西國專ツ之ニ任スヘシ

此條約ノ履行ハ總領事ルスタン氏ニ委任スヘシ

又カサルエサイドノ條約書中ニ在ノ四款アリ
突尼斯國主ハ佛國ノ允准ヲ經スシテ外國ニ關スル事件ヲ諾否ス可
ラス

爾來佛國共和政府ハ駐劄公使ヲ突尼斯ニ置クヘシ

突尼斯ノ外國ニ對スル事件ハ佛國ノ公使及ヒ領事之ヲ兼攝スヘシ
然レ一揆叛亂ヲ企テタル種族ヨリ他日相當ノ取費ヲ辨償セシムヘ
シ此事ハ突尼斯政府其責ニ任スル者トス

右等ノ諸ヶ條ハ五月十五日ヲ以テ訓印ヲ結了シブレアー氏ハ數隊ノ
兵ヲ率テ該政府ヲ受領セリ以後突尼斯國主ハ佛國ニ對シ專ラ親睦
ノ色ヲ表シ保護ヲ依頼シ條約實施ノ効ヲ顯ハサント欲スレモ兩國紛
議ノ端ヲ開キタルクルミール土蕃ニ至リテハ未ダ全ク國主ノ令ニ服
セス深林險谷ノ間ニ馳驅起伏シ尙佛兵ニ敵セントスルノ念アルヲ以
テ爾後佛軍ハ四方ニ分離シテ餘寇ヲ追撃スルニ從事セリ

第八章 突尼斯事件ノ結局

五月十三日突尼斯締約ノ報巴里ニ達スルヤ朝野皆欣々然トシテ連ニ
政府ノ目的ヲ遂ケ全勝ヲ占得シタルヲ賀シ遠路旅行ノ後重擔ヲ卸セ
シカ如キ思ヲナセリ然レモ不平等黨中ニハ政府潰武ノ失策ヲ非ル者モ
亦少カラス内閣宰相ジュールフリー氏ハ議院ニ出席シ公然報道シテ曰
ク今ヤ一條約ヲ突尼斯國主ニ要求シ國主之ヲ承諾シテ己ニ其訓印ヲ
得タリトノ報アリ該條約ニ因テ國主ハ陸海トモ其疆界ノ平和安寧ヲ
維持スルハ佛國武官ノ適宜處分スルニ任スト佛國ニ向テ確證セリ又
佛國ニ於テハ突尼斯國主及ヒ其正統ノ安全并ニ該國ト歐洲諸國ノ間
ニ現存スル條約ノ維持ヲ許諾シ國主ニ確證セリ然レモ先ツ佛國ト協
議スルナクハ萬國何レノ國タリモ向後新條約ヲ結フヘカザサルモ
ノトス外國ニ在ル佛國外交官吏ハ首トシテ突尼斯國ノ利益ヲ保護ス
ルヲ勉ムヘシ且其財政方法ニ於テハ該政府施政ノ處置最モ宜キヲ得

ルタメ國主ト協議シテ佛國ヨリ整理スヘシ又該國主統御ノ下ニ在ル
 蠻族ノ反亂セル者ニ向テ要求スヘキ償金ノ額及ヒ其受領ノ方法ハ向
 後ノ條約ニ因テ定ム可シ且同時ニ國主ハ其南岸ニ於テ武器及ヒ軍實
 ノ輸入ヲ禁制スヘキモノトセリトフリー氏復タ報道シテ曰ク該條約
 ノ全文ハ近時議院ニ送達スヘシ因テ議院ニハ佛國利益ノ爲メ安率ヲ
 確定セル條約ヲ批准スルニ躊躇スヘカラス且今回出征ノ舉ハ十分ニ
 其目的ヲ達セリト思惟ス云々

爾後宰相フリー氏ハ條約書全文ヲ得ルニ及ヒ更ニ之ヲ兩議院ニ通知
 シ調査委員ニ托シテ各條款ノ利害得失ヲ審査セシメタル後總議院ノ
 會議ニ付シタルニ兩院共多少異議ヲ容ル、者ナキニ非レ本條約ヲ
 是認スルノ投票多數ナレハ大統領ハ遂ニ批准ヲ與ヘ全國ヘ公布シタ
 リ

又突尼斯事件ニ關シ佛國外務卿バルテルミーサンチレール氏ハ在外

大使及ヒ公使ニ書ヲ與ヘタリ其客ニ曰ク今ヤ余ハ突尼斯國關係書類
 ノ要旨ヲ撮摘シ今回出兵ノ原因ト我輩ノ目的トヲ貴下ニ畧陳セント
 ス機ニ本件ニ就テハ我政府ノ意思ヲ告知セシメ既ニ數回ニ及ヘリ殊
 ニ宰相フリー氏カ議院ニ於テ陳述セシ要ハ貴下尙記憶セラル、如ク
 瞭然疑ヲ容ルヘキナシト雖モ玆ニ貴下ト本國政府トノ交際上裨益ス
 ヘキ二三ノ意見ヲ陳述セン夫レ佛國ノ突尼斯ニ於ケル政客ハ單一ノ
 主義ニ基ク、我五十年來ノ處置ヲ以テ證スルニ足レリ而シテ我主義
 ハ沙漠タル帶爾及蕃地ノ安寧ヲ維持スヘキ義務ヲ盡スニ外ナシサル
 ナリ試ニ看ヨ千八百三十年來佛國政府數回更迭セシト雖モ未タ帶爾
 及蕃地ノ安寧ヲ保持スル事ヲ忽ニセシ者ナキヲ我輩非利加蕃地ヲ敵
 視シテ之ヲ騷擾スル隣國ニ對シ我蕃地ノ安寧ヲ圖ルハ自然ノ義務ニ
 シテ是レ歐洲諸國皆我權利ヲ是認スル所以ナリ帶爾及ノ東方マロケ
 國境ニハ沙漠ノ天險アルヲ以テ一千八百三十年イヌソー戰爭

案佛國
カ帶爾

及テ畧領セシ時ノ戰以來時トシテ小難ヲ生セサルナキニ非スト雖モ
 シ云フナラシク直ニ鎮定ヲ得今ヤ我殖民ノ安寧ヲ保テリ然レモ突尼斯ニ接スル地方
 ニ於テハ騷亂常ニ絶ヘス我國力ヲ鎮撫ニ盡スト既二十年ノ久シキニ
 及ベドモ侵襲ノ患年々増加シ千八百七十一年スーク、アジス、スパイス
 種族亂ヲ起シ大將カブルチー部下ノ士官ヲ屠殺シ千八百七十八年オ
 ーヴルギ族ノ掠奪アリ且近時クルミール族ノ襲撃サントニ一族ノ抄
 掠等其狂暴ヲ逞フスルヲ實ニ其幾回ナルヲ知ツス然レモ我嘗テ復仇
 ノ策ニ出テス能ク之レニ忍耐セシコハ世人ノ皆感嘆スル所ナリ前日
 ノ寛裕ハ竟モ今日ニ悔ヒサレモ忍耐此ノ如ク己ニ久シ損害此ノ如ク
 既ニ多シ突國主ト議シ我國境ノ騷亂ヲ防キ安寧ニ復スルノ處置ヲ施
 スハ今日我輩ノ急務トスル所ナリ貴下等ニ送付ノ書類ヲ通覽シ我人
 民カ屢損害ヲ蒙リタルト此損害ヲ提起シタル國案土尼斯國案ニ之ヲ
 鎮壓スル權勢ナキトノ二事ニ至テハ誰カ敢テ驚カサラン夫レ亞突兩

國ノ間ニ十二種族ノ蠻民アリ交殺戮抄掠ヲ肆ニスレドモ突國主之ヲ
 制御スルヲ能ハス此カ爲メ禍害ヲ蒙ル者ハ我亞爾及ノ殖民ナリ是レ
 我殖民ハ寛仁ナル政治ノ恩ニ浴シ漸ク日ニ開明ニ進ミ生計安穩ナレ
 且蠻民ハ殘酷ニシテ侵襲ヲ事トスルニ由ル就中最モ慄怖ナル者ハウ
 ーシユトク、フレイシユス、ミケールノ三族ナリ蠻民ノ兵數ト所有ノ
 銃器幾多ナルトハ未タ詳ニ之ヲ知ラサレモ天險ニ據リ防戦スル敵兵
 ノ力ハ現ニ我出征ノ兵力ヲ以テ想察スルヲ得ヘシ亞突兩國間ニハ天
 然ノ境界ナク未タ嘗テ之ヲ確定セス千八百四十二年兩國境界ヲ劃定
 センカ爲メ兵ヲ率テ之ヲ測量シ地圖ヲ調査シ三年ノ久シキヲ經テ
 僅ニ一圖ヲ製シ千八百四十七年突國主アモー佛國ニ來遊ノ時之ヲ示
 シタルニ國主モ其正確ナルヲ證認セリ然レモ其兩國ノ境界ニ關シ特
 ニ條約ヲ結ハサリシガ故ニ今日ニ至リ國境尙未タ分明ナラス今日ノ
 急務ハ速ニ之ヲ確定シテ兩國ノ便宜ヲ計ルニ在リト

突尼斯ノ首相モスタハベンイスマールハ六月二十一日佛國大統領グ
レビー氏ニ謁見シテ曰ク今ヤ突尼斯ハ親密ナル契約ヲ貴國ト締結シ
タリ爾來ハ一意ニ貴國ノ強大ナル保護ヲ願フトグレビー氏之ニ答テ
曰ク余ハ今貴下ニ意裏ヲ語ルノ好機會ヲ得タリ夫レ今回ノ出征タル
已ムテ得サルノ勢ニ出テ出師ノ事案モ貴國ヲ減込スルノ旨意ニアラ
ズ世人モ亦認メテ此評ヲ下セリ且ツ斯ク條約ヲ締結セシ上ハ永世不
朽ニ之ヲ繼續センコトヲ希フ佛國ハ固ヨリ友誼ヲ厚フシ永ク貴國ヲ保
護スヘシト

佛國ノ突尼斯ヲ占領スルヤ歐洲諸大國政府人民共ニ多少ノ異見ヲ懷
キ本書附録ニ就中土耳其政府ノ如キハ公然突國ノ我屬國タルコトヲ主
張スト雖モ歐洲諸大國ノ政界タル陽ニハ意味無識ノ民ヲ啓發シテ文
明ノ徳深ニ浴セシムルヲ以テ名ト爲スト雖モ其實ハ衆ハ寡ヲ壓シ強
ハ弱ヲ凌グノ主義ニシテ蠶食呑噬ハ互ニ黙許スル所ナレハ土國政府
モ之ヲ如何トモスルヲ能ハス佛國政府ハ突政府ヲ受領シ總領事ル
タン氏ヲ全權公使ニ任シ突尼斯ニ於ル佛政府支應在勤ヲ命シ而シテ
鐵道ヲ置キ海關ノ權ヲ領シ其收稅ヲ調査シ鐵道及ヒ電線等ノ土木ヲ
起シ道路ヲ開キ其他諸般ノ改革ヲ行ヒ勉メテ稅款ヲ薄フシ以テ人心
ヲ收攬スルノ策ヲ施セリ

突尼斯紀畧終

突尼斯紀略附錄

歐洲諸國ノ關係

佛突ノ和親既ニ成リ佛國ハ之ヲ半屬ノモノト爲シ十分ニ其出征目的ヲ達シタリ然レモ此事件ニ就キ歐洲諸國中多少利害ノ關スル所少カクサレハ爲ニ各國ノ人心ヲシテ騷然タツシメタリ就中伊太利等ノ如キハ其最モ直接ノ關係ヲ有スルモノタレハ左ニ其要ヲ摘載シテ附録ト爲ス

伊佛ノ關係 伊國ハ最近著シク兵制ノ進歩ヲ致シ兵器ハ愈精ニ至リ間佛國ニ優レルモノナキニ非サレドモ兵數并ニ國力ニ至テハ決シテ佛國ノ敵ニ非ス然レ共伊人ハ佛國ニ向ヒ近來爪牙ヲ見ハシ之ニ抗衡セントスルノ意アリ偶突佛ノ變起リ伊國人民ハ騷然トシテ政府ノ處置ニ安ンセス佛國カ突尼斯國ヲ併呑セント欲スルノ意アルヲ見テ議院ハ政府ニ向テ佛國ノ内情ニ關シ政府ノ觀察スル所如何ノ疑問ヲ發

ス政府之ニ答フルニ今回佛國ノ舉動ハ領地人民ニ禍害ヲ加ヘタルク
 ルミール鐵族ヲ懲罰スルニ止リ決シテ突尼斯ヲ掠取セント欲スルノ
 策畧ニ非スト確言スルモ尙之ヲ信セス頻リニ不平ヲ鳴ラスニ由リ内
 閣首相カイロリー氏及ヒ其黨與ハ辭表ヲ捧ケタル後漸進黨員ダブレ
 チー氏新内閣組織ノ委任ヲ受ケタリ然レモ伊國ハ突尼斯ノ爲メニ保
 護ノ兵ヲ出シテ佛國ニ抗スルニ至ラスシテ止ム是ヨリ先キ突尼斯在
 留ノ伊國領事マクシツ氏ハ頻リニ同國主ニ諭示シテ佛兵ニ抗戦セシ
 メントシ且暗ニ人民ヲ煽動シ到底兵ヲ舉グルノ日ニハ伊國應援ノ兵
 來ラントテ揚言セシカハ國主以下諸官皆此言ヲ信シテ專テ伊國ノ來
 援ヲ希望スルノ情況ナリキ嗟乎突尼斯國ハ伊國領事ノ欺罔ニ罹リ遂
 ニ佛國ノ所望ニ陥レリ豈憐ム可キノ至リナラスヤ
 既ニシテ佛國カ突尼斯國ヲ屬地トナセシヨリ伊國內閣ニハ再ヒ主戰
 非戰ノ兩派ヲ生シ互ニ排軋シテ融合ハス要路ニ在ル者持論ノ容レヲ

レサルヲ憤リ皆職ヲ罷メタルニヨリ新ニ九省ノ卿ヲ任スルニ至レリ
 又人民中ニ於テモ主戰論者多ク五月十八日ノ黄昏ノ如キハ羅馬府ノ
 人民群集シテ非戰論ヲ主張セル新聞紙ヲ積ミ該社前ニテ燒キ且其口
 同音ニ其編輯長シヤラントン氏并ニ佛國政府ヲ排譏シ物情頗ル騷然タ
 リ唯羅馬府ノミナラス未蘭^{ウネ}チヤラン府ニ至ルマテ論者二派ニ分レ互ニ
 敵視シ動モスレハ爭鬪ヲ起サントスル勢アルヨリ羅馬宮殿ニハ俄ニ
 衛兵ヲ増シテ之ヲ警備スルニ至レリ其夜未蘭府ニテハ論者爭鬪ヲ起
 シ負傷者數十人即死二三人アリ又各府縣ノ知事縣令ニモ意見ノ合ハ
 サルヨリ幾ト皆辭表ヲ呈シ加之ナラス六月下旬ニ至リ佛國馬耳塞港
 ニ於テ伊國人ト佛國人トノ間ニ慘酷ナル鬪争ヲ惹起シ茲ニ佛國ハ那
 不勒多^{ノボト}濱^{ビッチ}治那亞^{ジナヤ}皆伊國ニ向テ兵威ヲ示スニ至ル

形勢斯ノ如クナルヲ以テ二國間ノ禍機將サニ發セントシ平時ニ於テ
 ハ特ニ些少ノ事件モ皆妖氛ヲ起スノ媒介トナルモノノ如シ伊國人

佛國カ昔テ字國ト取ヒ軍旅ノ名譽ヲ失ヒタルヲ以テ他國ニ向テ名譽
 ヲ博セントスルノ念勃々トシテ常ニ絶ヘス我伊國ヲ輕侮シテ憤ヲ取
 場ニ洩ラサントスルノ勢アルヲ察シテ頻リニ佛國ノ傲慢ヲ怒リ又竊
 ニ佛國カ伊國ノ兵力ヲ認認スルヲ以テ堅牢ノ鐵艦數艘ト練艦ノ陸軍
 四十有五萬アレハ尙其位置ヲ保ツニ難カラサルヲ喜ヘリ伊國諸大都
 府ノ人民ハ斯ク大ニ激昂シ居ルノ際佛國官吏カ突尼斯國ニ於テ伊國
 ノ利益ヲ損害セルト馬耳塞ニ於テ佛國人民カ伊國職工ヲ攻撃シタル
 トノ二事ニ因テ一層其憤激ヲ熾ナラシメタリ實際ノ情斯ノ如キカ故
 ニ當時伊佛ノ景况ハ恰モ字佛戰爭ノ前年其兩國間ニ於テ目撃シタル
 モノニ異ナラス蓋シ些少ノ近因アラハ以テ戰ヲ布告スルノ奇貨トナ
 サントス然レレ伊國政府ニ於テハ輕シク兵力ニ訴ル等ノ事ヲ欲セス
 幾ニ突尼斯ヲ煽動シテ伊國ノ援軍ヲラントスル等ノ説ヲ流布シタル
 假事マクシシ氏ニモ歸國ヲ命シ且内閣首相カイロリー氏ノ辭職後新

内閣組織ニ着手セシモ組織極メテ困難ニシテ其任ニ堪フルノ人才ニ
 乏シク數日ヲ經ルモ未ダ成ヲス遂ニ皇帝陛下ヨリカイロリー氏ヲ諭
 シテ其辭職ヲ止ムルニ至ル因テ全氏ハ直ニ同盟ノ議員ヲ會シ衆議一
 決ノ上更ニ一議題ヲ提出シテ多數ノ同議ヲ得テ再ヒ内閣長ノ職ニ就
 キ其紛議續ニ局ヲ結フニ至レリ全氏復職ノ後伊佛兩國ノ間ハ愈々平和
 ニ歸セントスルノ色アリ是ヨリ先キ伊政府ハ外債ヲ募ラントシタレ
 厄不幸ニシテ突尼斯事件起リ伊佛兩國政府ノ間ニ不和ヲ生シ動モスレ
 ハ事ヲ干戈ニ訴ヘントスルノ勢ナリシニ由テ外債ノ舉モ一時中止セ
 リ突尼斯事件已ニ結了シ隨テ伊佛ノ萬難モ氷解シタルヨリ伊政府ハ
 再ヒ紙幣交換ノ爲メ一億一千八百萬弗(五佛ク)ヲ巴里府ニ於テ募集
 スルコトニ決シタリト云フ

英佛ノ關係 突尼斯國ハ既ニ佛國ノ屬國トナリ印度ノ英政府ニ於ル
 カ如ク依然國主ヲ存スルト雖モ遂モ政權ヲ與ヘス若干ノ年金ヲ給與

シテ全國司法權ハ勿論諸稅出入ニ至ルマテ悉ク佛政府ノ全權ニ歸シタルヨリ英國ハ商業上ニ甚シキ障害ヲ蒙レリ故ニ佛政府ノ請求定約書ニ突尼斯國主ノ調印セルヲ聞クヤ否ヤ英政府内閣ニ於テハ大議論ヲ生シ遂ニ佛政府ニ向テ突尼斯國ノピンセルト港ハ如何ニ處置スルヤト疑問ヲ起スニ至ル佛政府之ニ答ヘテ曰クピンセルト港ヲシテ及港タラシムルニハ唯豫算金額一億五千萬佛ヲ要スルノミ故ニ我佛國ハ速ニ港内ヲ改良シ海軍ノ用ニ供セント欲スルノミ貴國ノ知ラル、如ク我亞爾及屬地ニハ二百五十萬餘ノ亞非利加人種アリ之ニ加フルニ新屬突尼斯ニモ百六十萬餘ノ亞非利加人種アリ此人種等ハ野蠻未開ノ民ニシテ國內江ヲ起シ屬地ノ安寧ヲ妨害スルヲ甚シ故ニ佛國ハ速ニ亞非利加地方ニ一大夏港ヲ築キテ之ヲ海軍港トナサントスト此時英國人民ニ於テモ亦佛政府ノ處置ニ就キ大ニ疑成ヲ起シ數名ノ議員ハ政府ニ向テ其目的如何ヲ質問スルニ至リシカ竹相及ヒ外務卿

等ハ勉メテ豫當平和ノ說ヲ主張シ以テ人心ヲ鎮定セリ然レトモ佛政府ノ處置ハ多少兩國政府和好ノ情誼ヲ冥々ノ中ニ損傷スル者アルカ如シ又兩國ノ新聞紙ハ喋々トシテ互ニ罵詈ヲ極メ誹議百出其狀恰モ奇異ノ一戰場ヲ觀ルカ如シ佛國一新聞ノ曰ク彼ノサイブリスヲ掠奪シ印度諸王ノ後ヲ絶チトランスリールノ新教徒殖民地ヲ押領シタル國ハ即チ暗ニ英今佛國ニ向ヒ何等ノ怒ヲ懷クヤ佛國ハ特ニ此義舉ヲ以テ北阿非利加ヲ靜謐ナラシムルノミト甚シキハ英國ヲ以テ老練ノ一愛猫兒ヲ喪ヒ心志擾亂シテ罵詈スル者ニ比シ佛國ヲシテ英國ト事ヲ共ニスル勿クシメントスルニ至ル又一ノ佛新聞ハ英國及ヒ伊太利ノ舉止ヲ見ルニ我ヲシテ不幸ニモ一時日月曼ト合體スルヲ要セシムルト論シ又他ノ一新聞ハ土耳其帝國ノ衰微既ニ近キニアルカ故ニ佛國ハ埃及及ヒ西里亞ニ於テ好位置ヲ占ムルヲ以テ目下ノ急務ト爲スト論セリ此等ノ語ヲ聞キ英國モ亦意平ナル能ハス下議院ノ議員一名

更ニ一步ヲ進メ伊太利^{トリス}ヲシテ的波里^{トリ}國ヲ奪取セシメ以テ利益ヲ平均セント欲スト其レ斯ノ如ク秘密ノ事蹟一タヒ世ニ顯然タルニ至テハ英國ノ道徳家歐洲各國ノ義務ト萬國公法犯スヘカラストノ事ヲ言フモ人誰レカ之ヲ信センヤ云々

土耳其ト突國トノ關係 土耳其政府ハ突尼斯ヨリ佛國ト和親條約締結ノ報ヲ得テ直ニ電信ヲ突國主ニ傳ヘ土廷ニ於テハ未ダ嘗テ他國ト共ニ結約ノ權ヲ同國主ニ許可セス因テ新條約ハ無効ノ者ト思考ス國主ニ於テモ宜シク土廷ノ意ヲ遵奉スベシトノ旨ヲ令シ又各國在留ノ公使ニ達シテ曰ク突尼斯國主ノ調印セシ佛政府ノ請求ハ無効ノ者ナリ其故ハ突尼斯國ハ土耳其政府ノ領地ナリ然ルニ佛政府ハ俄リニ國主ヘーニ迫リテ強テ調印ヲ促カシタルモノニテ其順序ヲ經テ事ヲ爲シ遂クルモノニ非ス佛政府若シ談判ヲ要スルコトアテハ先ツ土耳其政

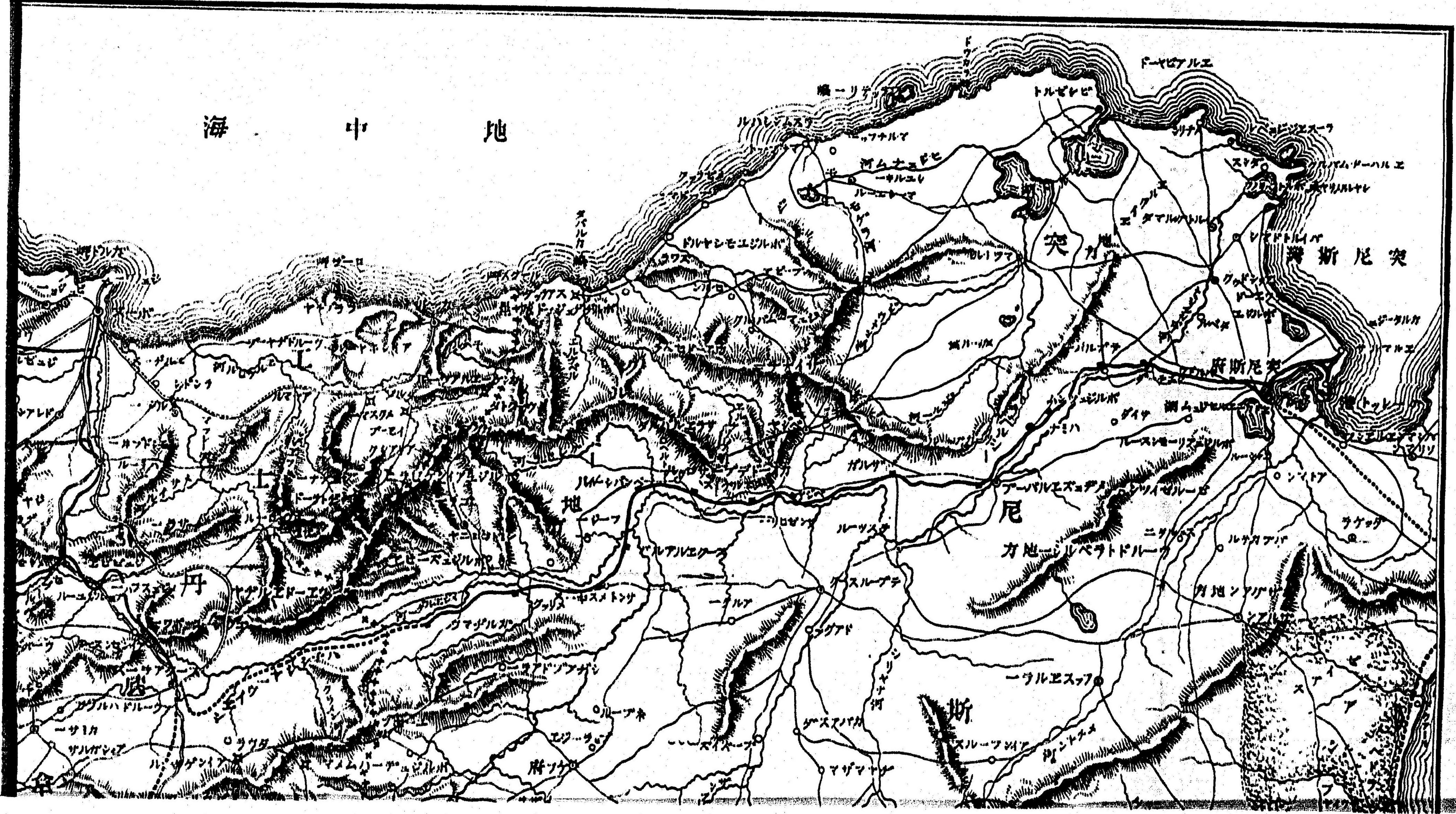
約定書ハ固ヨリ廢紙ナリ突尼斯人民ハ佛屬地ノ人民ニ非ス我土耳其ノ人民ナリト明言セリ

突尼斯紀略附錄終

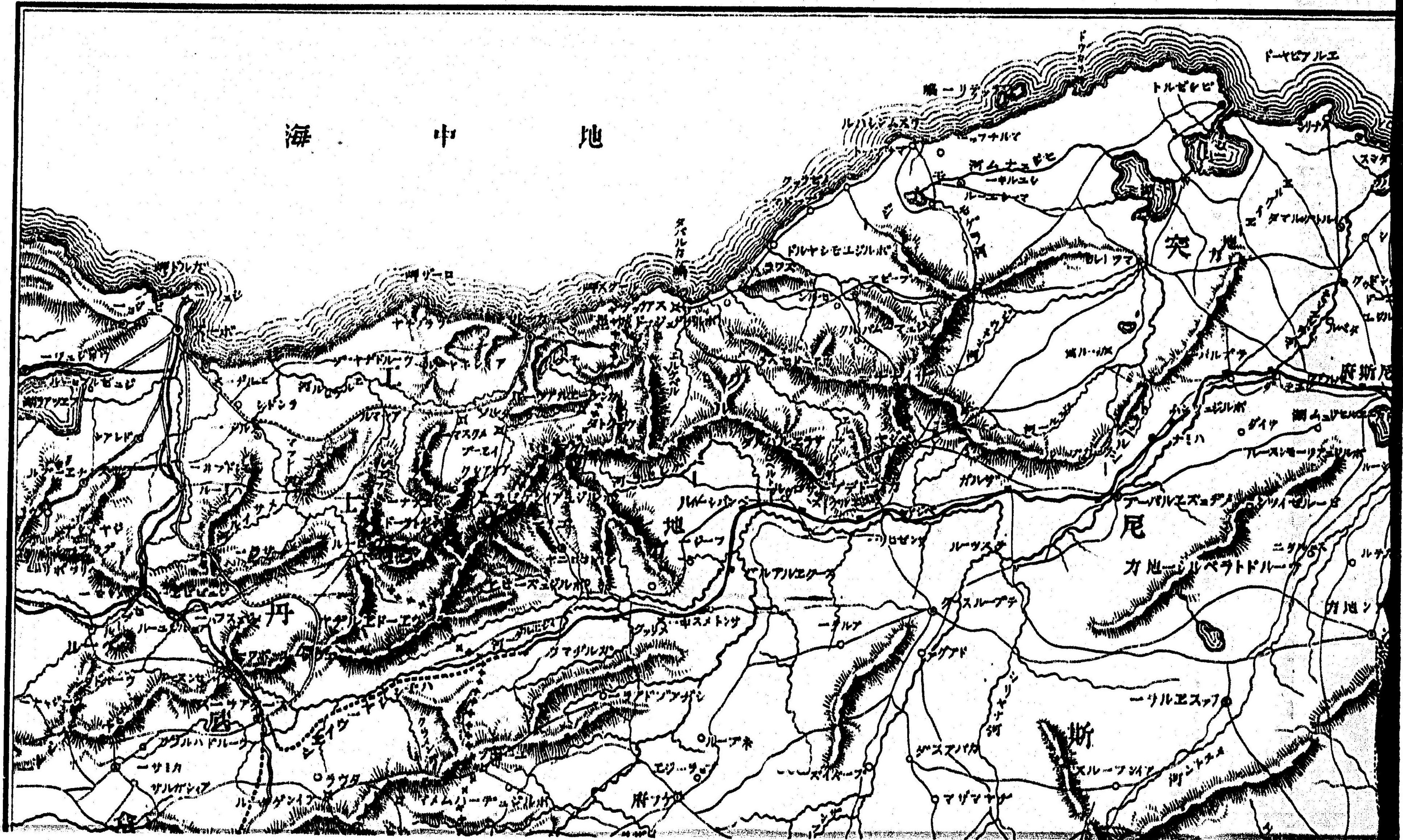
И-2К7

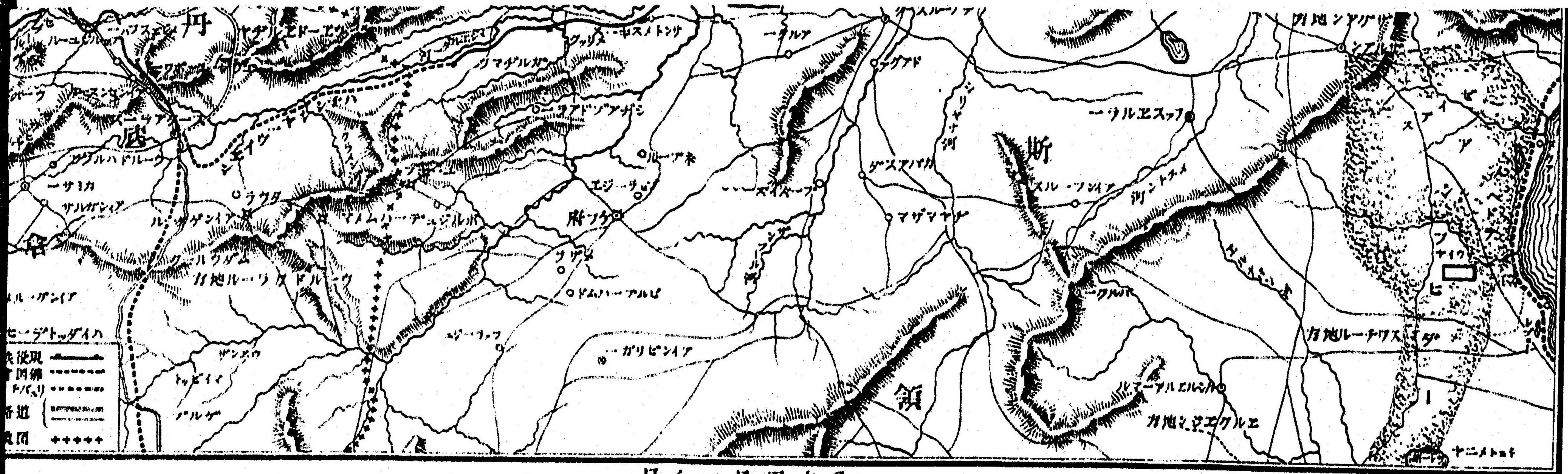
突 尼 斯 國 境 作 戰 圖

地 中 海

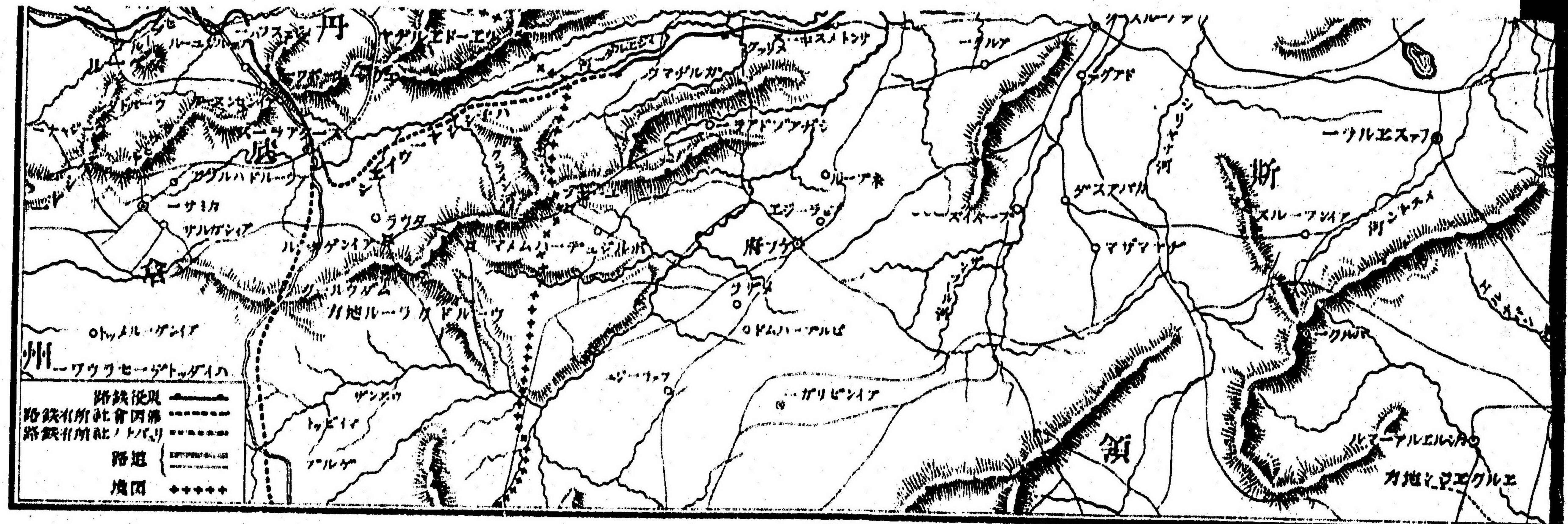


突尼斯國境作戦圖

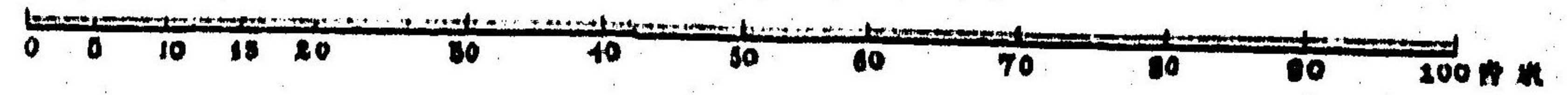


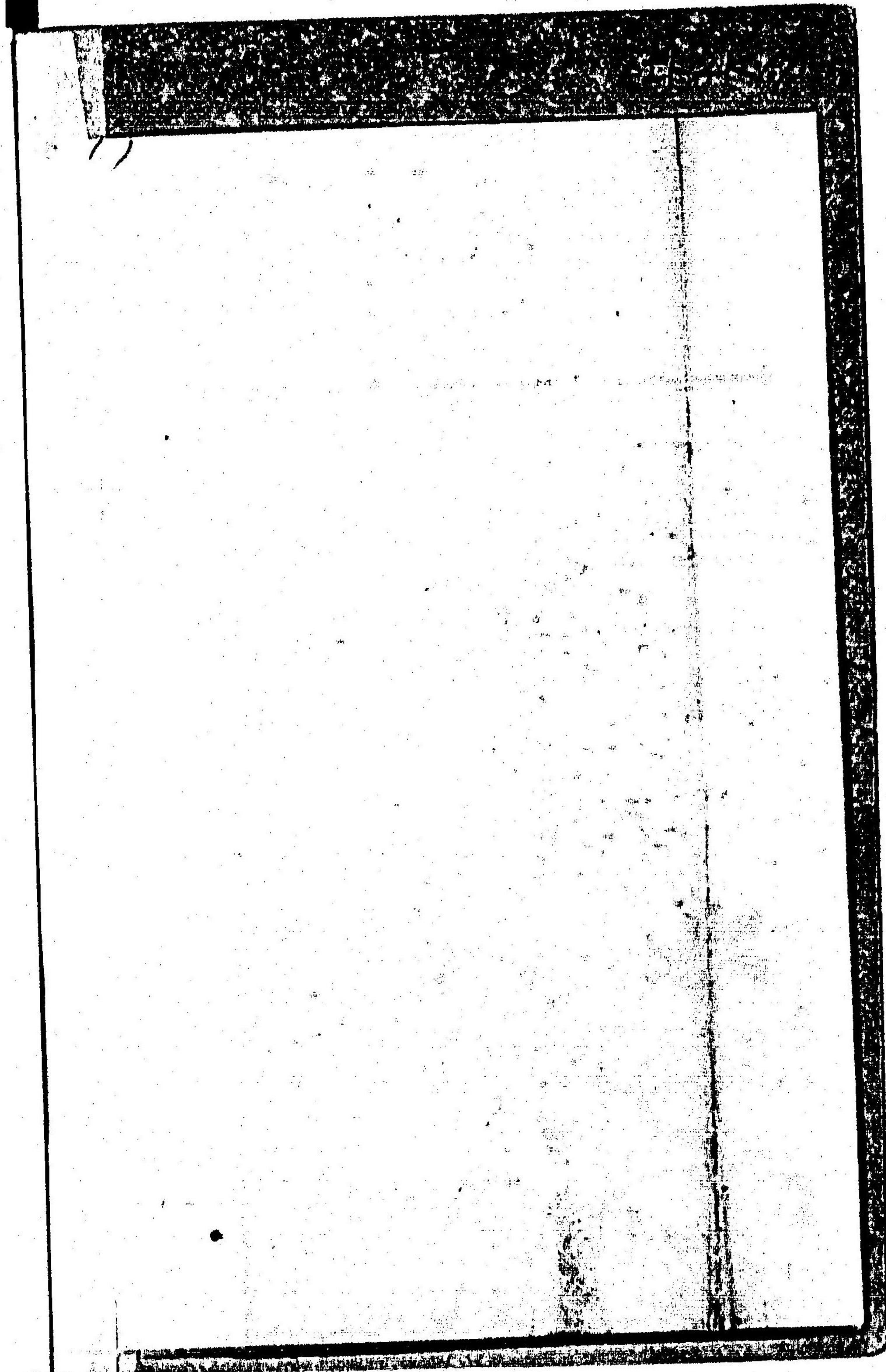


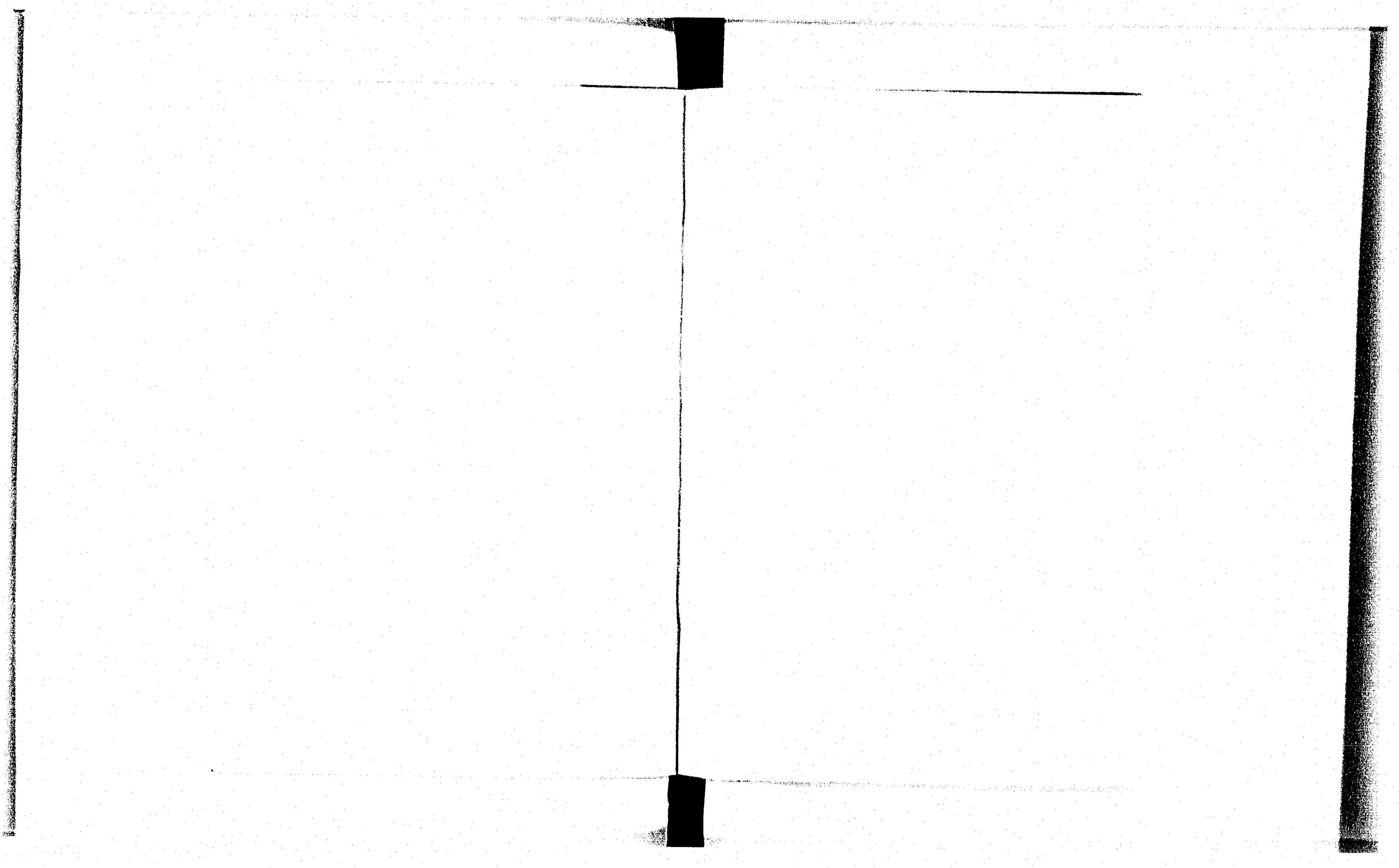
尺一分万十八
0 5 10 15 20 30 40 50 60 70 80 90 100 千米

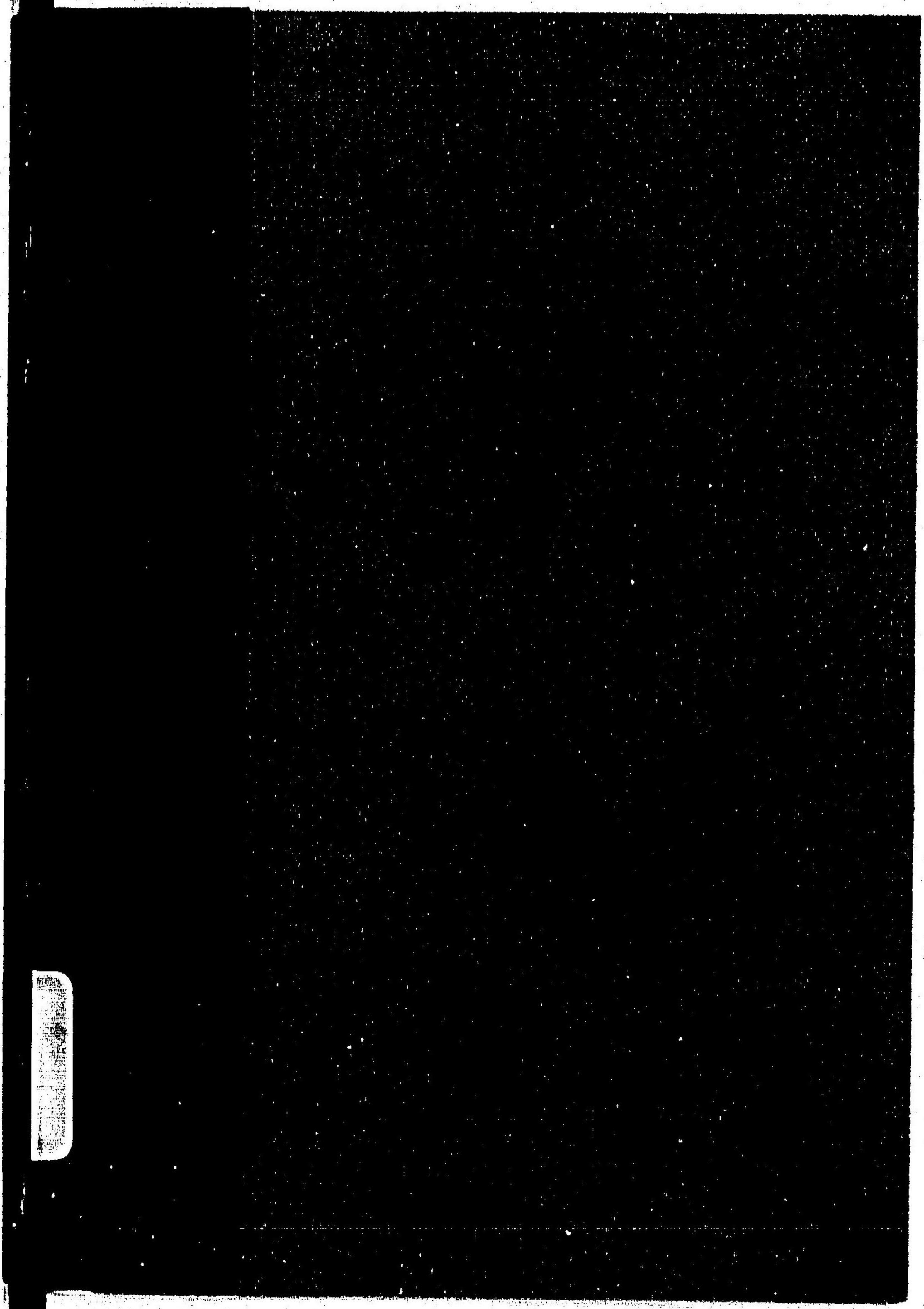


尺一分月十凡









11

19

28

026820-000-3

19-28

突尼斯紀略

永田 健助/編

M16

ADE-0013



